

マーク・リー・フォード

自由



自由

自由とは何でしょう？あなたは自由ですか？

マーク・リー・フォードは、物理法則や存在の公理を用いて、自由、主権、およびお金の概念を導き出すことによって、これらの質問に答えようとしています。論説のような側面を持つ『Freedom（自由）』は、これらの概念とそれに対する脅威を理解することによって自分の人生を管理するための実践的なガイドです。本書には、人生がどのように機能するか、そして人生の意味についてのフォードの見解が集約されています。

マーク・リー・フォードは、起業家、科学者、エンジニアです。

レノックス・サミュエルズは、バンコクを拠点とするライター兼編集者。『ニューズウィーク』と『ダラス・モーニングニュース』の元上級編集者兼外国特派員を務め、イラクやソマリアの紛争など、数多くの国で取材を行ってきました。1994年にピューリッツァー賞（国際報道部門）を受賞した新聞連載「Violence Against Women」の編集者でもあります。

マーク・リー・フォード

自由

編集

レノックス・サミュエルズ

THE MONEO COMPANY

Freedom

Copyright © 2020 by Mark Lee Ford
All rights reserved.

No part of this publication may be reproduced, distributed, or transmitted in any form or by any means, including photocopying, recording, or other electronic or mechanical methods, without the prior written permission of the publisher, except in the case of brief quotations embodied in critical reviews and certain other noncommercial uses permitted by copyright law. For permission requests, contact the publisher:

The Moneo Company, Box 1343, Uxbridge, Ontario L9P1N5 Canada

THE MONEO COMPANY

www.moneo.jp

Puto. Eligo. Faciam.
Think. Decide. Do.

For Butter

ISBN: 978-1-988210-22-3

Printed in the United States of America

目次

自由	9
主権	15
お金	21
全体主義	28
人生	46
人生の意味	54
付録：応用例	
どのくらいのお金があれば足りるのか？	59
日本人女性のための思索	62
君主制の詐欺	92
現代アメリカにおけるイデオロギー	102

自由

あなたは存在します。

そのためには、エネルギーを消費したり、消耗したりします。この2つの活動は、細胞や細胞下レベルで行われます。それらのレベルで思考が生まれ、思考から意志²が生まれます。したがって、あなたの意志があなたの存在であるため、あなたの意志はあなたの存在から分離することはできません。

人生のある期間、何らかの目的のためにエネルギーを向ける時、あなたはそのエネルギーと時間を、エネルギー保存の物理法則により、そのエネルギーと時間に相当する製品に変換しているのです。この変換プロセスは「労働」と呼ばれます。それはあなたの意志のプロセスです。考えること、愛すること、話すことなど、あらゆる方法で物事を行い、物を作ることが、あなたの労働です。あなたの労働の産物は、かつてあなたであったものから作られています。次の瞬間にあなたが作ろうとしている製品は、今のあなた、つまりあなたのエネルギー、時間、そして意志から作られています。このプロセスは元に戻せません。

1 あなたの存在の境界は何ですか（例えば、あなたの体はいつどこで始まって終わるのですか）？この質問への答えは、あなたの「意志」をあなたの存在から切り離せないことを立証するために必要であり、よってそれは、人の労働の産物に対する支配権を立証するための根拠となります。

個人の存在の境界は曖昧です。例えば、人間の腸内の微生物は、神経細胞に影響を与えるタンパク質を発現しており、もしかしたら、自分の意志にも影響を与えるかもしれません。また、他者や生物、環境など、自分の意志に影響を与える要因は体外にもあります。しかし、ある人の意志と別の人の意志を区別するには、誰の資源（誰の人生のエネルギーと時間）が変換プロセスに関与しているかに関係していません。

2 人が行動を決定し、開始するための能力

あなたの労働は、あなたの意志から切り離すことも「疎外」することもできない、不可分のものです。³しかし、変換プロセスは、あなたが労働によって製品を作っている間、その製品をあなたの存在から疎外します。あなたは自分の製品を他の人の製品と交換して、その人の人生から時間とエネルギーを得ることができます。また、強制的に相手の製品を奪うこともできます。そして、相手も同じことができます。

あなたのライフストーリーとは、あなたが自分の存在を労働によってどのように製品に割り当てるかを決め、その製品を使ってあなたや他の人が何をするかについての年代記です。実際、これまでに存在した1,070億人の人間のライフストーリーは、誰が誰の労働の産物を支配したかという問題に基づいています。自分の労働の産物を支配することができれば、「個人の主権」があると言えます。

それでは、自由とは何でしょう？

辞書によると、自由とは「**個人の意思に起因する自己決定力**」と定義されています。しかし、この定義は実用的ではありません。なぜなら、「自己決定する力」は「意志」と同じだからです。すべての精神的能力のある人は、行動を決定し、それを開始する能力-意志-を持っています。例えば、銃を突きつけられたとき、あなたは犯人に従うか抵抗するかを選ぶことができます。抵抗すれば殺されてしまうかもしれません。[「抵抗する」「従う」という選択肢は魅力的ではないかもしれませんが、魅力的であるかどうかは程度問題にすぎず、意志の存在、選択可能な選択肢、ひいては選択肢をあなたの選

³ 社会契約説では、これを誤って自然権と呼んでいます。自然権は、(法的権利のように) 特定の文化や政府の法律や慣習に依存せず、没収される可能性があります。労働は物理法則により意志と切り離すことができないので、個人は労働を没収されることはありません。社会契約説の誤りを解決するためには、「自然権」の定義を改良して、私が行ったように労働と労働の産物を区別しなければなりません。

択する力を否定するものではありません。意志は本質的に自由であるため、「自由意志」は冗長です。

しかし、労働の産物は誰にでもコントロールされる可能性があります。人間が自由であるのは、自分の労働の産物がすべて自分の意志だけに従うときだけです。このような人は、自分の労働の産物に対して支配権（主権）を持っています。

したがって、主権を持つ個人のみが自由であり、それは、労働の産物の処分を自由に選択できることを意味します。

では、あなたは自由ですか？

その答えは、あなたの労働の産物を誰が支配しているか、あなたなのか、他の誰かなのかによって決まります。また、産物のすべてではなく、一部を支配するといった程度の違いも存在します。

生物は個別の存在でも、その多くは協調して行動しており、メンバー間の合意に基づいたコミュニティを形成しています。生物は、自分たちの行動を規定するプロトコルを自分たちの間で作成します。コミュニティ内の各生物は、コミュニティの他のすべてのメンバーに貢献し、そこから利益を得る一方で、コミュニティ内の他の生物が同様に行動することを妨げないようにすることで、その存在を維持（ひいては向上）しています。プロトコルは、コミュニティ内の各生物の自然な存在状態の結果として生ずるものであり、プロトコルの特性は物理法則と一致しています。

人間もそのような生物の一つです。

人間の間では、「人は自分の労働の産物を支配することができるが、他の人の労働の産物に対する支配を奪うことはできない」という合意があります。この合意は「権利」⁴と呼ばれます。すべての権利と道徳はこれに由来するか、それと矛盾しています。これを表現する一

⁴ 法的権利

一般的な方法は（不完全ではありますが⁵⁾、「個人だけが自分の労働に対する権利を持っている」または「個人だけが自分の労働を疎外する権利を持っている」というものです。例えば、誰かを殺すことは、自分の労働が機能するために必要な要素、つまり個人の意志、エネルギー、そして時間を根絶することになるので、この合意に違反することになります。

あなたの労働の産物は、誰かを愛することや鼻先のかゆみを和らげることなど、あなたが自分の存在を割り当てることに決めたすべてのことの結果です。考えることのように一過性のものもあれば、陶器を作ることのように、より永続性のあるものもあります。恋に落ちることは前者、恋を続けることは後者に近いでしょう。

これらのことは、他の人があなたの労働の産物を評価することを意味するものではありません。また、自分の労働の産物を取引する義務があるということでもありません。あなたが好きなようにそれらを扱えることを意味するだけです。交換したり、保存したり、浪費したりもできます。あなたは他者が自分の労働の産物を好きなようにする権利を侵害しない限り、自分の労働の産物で何をしていても自由です。

本章はその他の章とあわせて「あなたは自分の労働の産物に対する支配権を持っていますか？」という問いに答える助けになるでしょう。その答えが、あなたの人生の意味を決めるのです。

しばしば、抑圧されていると訴える人は自由であり、権力を握っていると思う人は実際には束縛されており、人を助けると公言する人は助けを必要としている人を支配したいと望んでいます。人には、自分が望む状況ではなく、あるがままの状況を見る頭脳が必要です。そ

⁵⁾ 以前の脚注で正当化されたように、正確な表現は「個人だけが自分の労働の産物に対する権利を持っている」そして「個人だけが自分の労働の産物を疎外する権利を持っている」であるべきです。

のような能力を持っている人は非常に少なく、その中でもそれについて何かをしようとする勇気を持っている人は極めて少ないのです。私はその両方を持っている人たちのためにこの本を書きました。

人生は短い？

セネカは、「その使い方を知っていれば人生は長い」と書いています。

私があなたに自然寿命の10倍の時間を与えたとしても、それではまだ短いかもしれません。しかし私があなたの寿命を半分に減らし、残った人生を管理する方法を示せば、あなたの人生は十分すぎるほど長くなるでしょう。

トマト3個をタマネギ1個と交換したり、20000ドルを車と交換したりするのは、モノを交換しているのでしょうか？ そのように見えるかもしれませんが、あなたは自分の存在の一部であったもの、つまりあなたの意志に基づいた人生の時間とエネルギーを、それぞれが作った製品という形で他の誰かと交換しているのです。

自分よりも他者にとって価値のある製品を作るために労働し、それを、作った本人よりもあなたにとって価値のある他者の労働の産物と交換することで、限られた寿命の中で、一人ではできない多くのことを達成できます。人の寿命はそれぞれ限られていて異なるものですが、あなたの労働の産物を他の人と交換することで、両者の人生で利用できる有限の時間とエネルギーの効用を高めることができます。なぜなら、意志はあらゆる実際上は、無限の資源だからです。これを実現できるのは主権者だけです。

あなたが人生においてなりたい自分を作るためには、自分の人生を正しく管理する必要があり、そのため

にはまず、自由、主権、お金、全体主義、そして人生を理解しなければなりません。

「主権」とは、自分の労働の産物をどうするかを自分だけが決めることができるということです。労働の産物とはあなたが自分の意志に従って人生のエネルギーと時間を使ってやろうと決めたことを、物理的に具現化したものです。

「お金」は、あなたの労働の産物を、通貨やその他の金融商品を使って表す方法であり、他の人々の労働の産物との取引を容易にします。あなたが何かを買うとき、あなたは自分のお金を他の人々の労働の産物に変換しているのです。それはちょうど彼らが彼らの所有するお金をあなたの労働の産物に変換するときに、あなたの人生から時間とエネルギーを奪うのと同じです。ビジネスとは、2以上の当事者が、自分たちの製品よりも価値があると認識している互いの労働の産物を取引する行為です。時間-私たちの人生の時間-は、私たちの人生の通貨です。

「全体主義」とは、あなたの労働の産物のすべてを支配しようとする人々のことです。そうした人々は策略と強制によって行動します。全体主義者を早期に無力化することで、自分の身を守りましょう。あなたの自由を失うのは、あなたです。

「人生」とは、自分の存在に意味を持たせるために、あなたの労働をどのように管理するかを決めることです。

主権

自分の労働の産物を支配することができれば、それは主権者であると言えます。

個人の主権を求める気持ちには、すべての生物に共通する原動力があります。人間は誰でも自分のエントロピーを下げようとし、それは自分の経済的利益を最大化するための行動に現れます。

人間の細胞は、エネルギーを消費して使い、意志を持っているという自然な存在状態にあります。細胞は、一生のうちのある時期に、何らかの目的（遺伝子の中の指示ガイドを読み書きしたり、タンパク質を作ったり、細胞がしなければならない他のすべての仕事をしたりすること）のためにエネルギーを使います。これは、細胞レベルではありますが、労働です。

また細胞は社会的な生物でもあります。仲間の細胞とコミュニティ⁶を形成し、自身の労働の産物を仲間の細胞と交換することによって自分の生存率を最大限に高めます。細胞同士の関係は協力的かつ競争的ですが、捕食的ではありません。

各細胞が仕事をするためには、細胞労働によって製品に変換された他の細胞からのエネルギーと時間を必要とします。私たちが労働の産物を保存したり取引したりするための物理的手段として通貨を使うように、細胞には自らの労働の産物を貯蔵し取引するための通貨があります。アデノシン三リン酸（ATP）は、細胞間取引のための通貨です。ATPの分子1つ1つには小さなエネルギーが含まれていて、細胞のあらゆる働きに使われています。

⁶ 人間のコミュニティが町、市、州、国という形をとっているように、例えば細胞のコミュニティは、組織、器官、系統という形をとっています。

細胞は、他の細胞から供給物やサービスを「購入」し、自分が製造した供給物やサービスを他の細胞に「販売」します。例えば、中程度の大きさのタンパク質を1つ作るのに、細胞は約2,000個のATP分子に含まれるエネルギーを使用し、1秒間に数百万個のATP分子が、細胞が働くすべてのものを動かしています。人間の体には常に約250gのATPが含まれていますが、すべての細胞は1日に体重相当のATP分子を交換しています。細胞は膜を電池に見立ててエネルギーを蓄えることもできます。これらの活動はすべて、細胞レベルでの商取引と富です。

細胞は、私たちが知る中で最も基本的な単位であり、その労働の産物を支配する力、つまり主権を持っています。物理学の用語を用いれば、人間や他のすべての生物と同様に、細胞はそのエントロピーを下げようとします。経済学的に言えば、細胞は細胞経済における自らの経済的利益を最大化しようとします。そうすることで、組織、器官、系統は、健康、生産性、長寿といった繁栄の可能性を最大限に高めることができます。

細胞が生存し、繁栄するためには、細胞レベルでの主権が守られなければなりません。言い換えれば、細胞はお互いに守られなければならない（例えば、自分のものではないものを取ってはならない）、そのコミュニティも同様にお互いに守られなければなりません。ガンは、この保護が機能しない場合に発生する1つの例です。ガン細胞は正常な細胞のように互いの主権を尊重しているにもかかわらず、正常な細胞の主権を奪ってしまうのです。

細胞の間では、細胞の主権は神聖なものです。主権を確保するためのガバナンスは強力ですが、個々の細胞間や細胞コミュニティ間での主権を侵害されないよう守ることに厳しく限定されます。そして最終的には、身体全体を実存的な脅威（バクテリア、攻撃してくる動物、他の人間など）から守ることになります。

細胞レベルでは、例えば、悪さをする細胞を無力化する免疫系の細胞によって、ガバナンスが行われていま

す。7 他のすべての細胞と同様に、細胞の執行者は、その任務を遂行する間、ATPを通貨として他の細胞と製品を交換します。執行者は、他の細胞に仕事のやり方を指示したり、他の細胞の仕事を横取りしたりすることはありません。

ガバナンスが正しく機能するためには、ガバナンスは人間にとって最も脅威となる構成要素である個々の細胞の近くに保たれなければなりません。人間は、自分の体内にある特定の細胞に対して、その細胞が仕事を遂行するのに最適な方法を指示することはできません。また、細胞レベルのATP経済において、細胞間の取引に干渉することもできません。このようにして細胞の主権を維持することで、体全体を存続させることができます。

体のある部分を他の部分よりも優遇するために、細胞ガバナンスを妥協しようとするとうどうなるでしょうか。必ず他の部分が犠牲になるというトレードオフが起こります。これを検知するのは、不可能でないまでも、困難です。副作用のない薬や治療法はありますか？食べ過ぎて満足することは、必ず何らかの結果をもたらしますよね？

ここで、細胞レベルから人間レベルに目を向けてみましょう。

細胞と同様に、人間はコミュニティの中で生存しています。そのために、人間のコミュニティにおけるガバナンスは、人と人、コミュニティとコミュニティの間で主権が侵害されることを防ぎます。また審判のように、ガバナンスのルールは公平に執行されます。コミュニティのメンバーは、政府というメカニズムを介してこれ

⁷ 体全体のレベルでは、個人の意識がガバナンスを管理しています。例えば、「闘争か逃走か」という反応や、知性を使ってガンと闘うことなどがあります。

らのガバナンスの目的を達成します。8それ以外のところで政府が個人の問題に介入すると、個人の主権を侵害することになり、エントロピーを減少させる人間の能力が損なわれます。その結果、人間の生存の可能性は、人間が自由に選択できる場合と比べて常に最適ではなくなってしまいます。

プライベートな立場にある人間同士の取引は、人間の中の細胞同士の取引に劣らず複雑です。では、なぜ自分には特別な知識や能力があり、それゆえ仲間の主権を侵害してもいいと考える人がいるのでしょうか。そのような人たちは、ガン細胞と同じように、自分の目的のために、力づくで他者の主権を侵害します。その結果は、悲劇的なことに、ガンの場合と同じです。

正常な細胞の中で、このような干渉が起きているケースは1つもないのではないのでしょうか。細胞Aは、細胞BからATPを奪って細胞Cに渡し、その過程で自分のためにもATPを一部残しておくようなことはしません。

しかし、これは政府が税金を課すときに行っていることです。政府の代表者は、他の個人間の私的な取引に介入して、取引されているもの（すなわち、個人の労働の産物）を奪い取るのです。介入者は2つの方法で自らを正当化します。1つは個人を助けているという信念（または偽り）であり、もう1つはより一般的に、地域社会の全構成員のより大きな利益のために奉仕しているという信念（または偽り）です。

ですから、資本主義か集団主義か、といった経済システムの違いの議論に巻き込まれないようにしましょう。これらの言葉は、何が取引されているのか（自分の存在の一部）、誰が取引の条件を決めるのか（個人か他者か）といった最も重要なことを曖昧にしています。すべての生物の自然な存在状態から生じる自然なシステムは、個人の主権です。他のすべての経済「システム」

⁸ 免疫系の細胞と同じように、政府も個々の人間の集まりであり、全知全能の存在ではありません。

は、この1つの自然システムの否定の度合いが異なるだけです。共産主義、社会主義、民主的社会主義、純粋民主主義、ファシズムなどは、すべて否定というテーマのバリエーションです。左から右へのスペクトルは存在しません。個人の主権を奪うという手口において、すべて同じなのです。

最近、欧米の民主主義国の公衆衛生担当者は、「社会の集合的価値」に取りつかれ、それを利用して個人の主権を奪い、地域社会のすべての人々のためになると言い張って施策を押し付けています。名前と顔のある特定の人を助けることはなく、匿名の人口データに基づいて顔のない集団を助けることしか考えていません。

第一に、私たちの体内の細胞が私たちの感覚を知らないのと同じように、私たちは知らない何らかの社会的感覚がない限り、社会には価値がありません。9そのような感覚が存在しないとは言いませんが、もし存在したとしても、私たちはそれについて何も知りませんし、「あなたの価値は何ですか？」と尋ねることもできないので、現在のところ実用的ではありません。それは、あなたの盲腸にある小さな細胞群が、あなたに「あなたの価値は何ですか？」と尋ねるのに似ています。

9 集団ではなく、個人だけが価値を持つことができると証明できません。「価値」とは、人生において何が重要であるかを判断（決定）することです。「シェア」とは、人々の間で分割された、より大きなものの一部または部分のことです。「集団」は、グループの全メンバーに関係しています。「価値」は決定事項なので、人間の意志によるものです。人間は自分の意志を分割したり、疎外したり、他者の意志と合体させることはできません。したがって、「価値」は不可分であり、譲れないものであり、同様に集合させることはできません。つまり、人々の集団は「共有された意志」を持つことができず、ゆえに「共有された価値」も持つことができないのです。

「共通点を持つこと」と「共有されたものを持つこと」を混同すると誤りが生じます。個人の集団は共通する価値を持つことができますが、それは「共通の価値」ではありません。価値観はその人だけのものです。ある人の価値観と別の人の価値観は同じである可能性が大いにありますが、それは「共有された価値観」ではありません。

第二に、個人が価値観や意識、感覚を持っていることは否定できません。

どのような施策であっても、立証責任はその施策を提唱する人が担っており、施策を実施するために主権を奪われる人は担っていません。仮にある施策が個人の利益になると証明されても、最終的に判断するのは個人であって、個人の主権を侵害しないように自己管理すべき公衆衛生当局ではありません。

一人の人間が他の人間の主権を奪うことほど、暴力的で墮落した自己愛に満ちた行為はありません。ガン細胞は常に正常な細胞にそのようなことしています。しかし、ガン細胞であっても、自分の兄弟にそうすることはありません。

お金

お金は、過去・現在・未来において、あなたの人生と人類の人生を結びつけます。

お金は、お金を貯めようとする人にも、お金を避けようとする人にも、同じようにしっかりと巻き付いてきます。私たちはお金を費やさなくても、知らず知らずのうちにお金を使っていることがあります。お金との縁を断ち切るためには、他の人類を放棄するか、あるいは全人類がその本質を放棄するよう求めなくてはなりません。

お金のことになると、私たちは合理的な行動をすることもあれば、非常識な行動をすることもあります。私たちはお金について夢を見たり、希望を持ったり、悩んだりします。お金のために何年も苦心しながら、どうすれば早く手に入るかと悩んだりします。仲間からお金を搾り取るために、おだてたり、ごまかしたり、嘘をついたりします。そして、それがうまくいかないときは、祈るか殺すか、あるいはその両方をします。ケチであると同時に太っ腹だったりします。お金で、そしてお金のために、国家、帝国、文明を築いたり破壊したりします。

私たちの生活にはお金が浸透していますが、私たちの中にお金の支配者はいますか？

私たちは、物理的なお金（現金、株式、債券、商品やサービスなど、様々な形態のお金）や、それに付随する金融、経済、会計などの概念に最も精通しています。それにもかかわらず、私たちはお金を神秘化したり、善意の名言やたとえ話を用いて矮小化、悪魔化したりしますが、その多くは妄想とまではいけないまでも、間違っています。「お金を愛することは諸悪の根源である」「受けるより与える方がよい」私たちの周囲に存在する証拠は、それに反することを叫んでいます。

宗教は、私たちと物質世界との関係、つまりお金への執着を戒めています。何千年もの間、お金は邪悪で汚いものだと信じてきた人がどれほどいるのでしょうか。ある人が金持ちになると別の人が苦しむ、という決まり文句があります。だから、自分の魂のためにも、人類のためにも、私たちは財産を手放し、禁欲的な生き方をし、死後の存在のために富を築くべきなのです。

物事が自分の思い通りに進まないと、私たちは人生におけるお金の重要性を否定しようとし、お金の失敗すると、欲やお金そのもののせいにして、その規模が、1人の人が借金を返せない場合でも、何十億もの人々が無知、病気、争い、あらゆる苦しみから抜け出せず、窮乏生活を送っている場合でもです。当然、私たちは自分が欲張りだとは思っていませんし、少なくとも隣の人ほど欲張りではないと思っています。

しかし、宗教の創始者や信奉者、また個人の主権を奪って自分たちのユートピア路線に沿って社会を組織しようとする人々は、お金に惑わされています。彼らが否定的に誤って「欲」と呼んでいるものは人間の生きるための本能であり、それはすべての生物が死の瞬間に必死になって息をしようとするのと同じ本能です。本能は道徳でも不道徳でもなく、宇宙の営みに過ぎません。

それでは、お金とは何でしょうか？

時間を止める方法はまだ考案されていませんが、お金は、少なくとも一時的に時間を瓶詰めにして、後で時間を使うことを可能にする方法です。

お金を瓶詰めできる時間は、人間の人生の時間だけです。お金とは、自分の人生の時間とエネルギーを、自

分の労働の産物という形で蓄えておき10、後で自分（または別の人）のために他者の労働の産物に変換するための手段です。したがって、私たちは自分の労働に対してお金で支払うことはできません。政治家が物を買うためにお金を刷るとインフレが起こるのはそのためです。彼らが刷ったお金は、誰かの労働の産物、つまり誰かの人生の実際の時間とエネルギーとは同等ではありません。

私たちにはなぜお金が必要なのでしょうか？

欲しいものがあったら、それを作る方法を知り、その後、作るための労働力を得る必要があります。十分な時間とエネルギーがあれば、人はその両方を行うことができます。例えば、玉ねぎのような一見単純なものを作る場合を考えてみましょう。まずタマネギの栽培方法を学び、そのための道具を設計・製作し、さらにその前に、道具を作るための原材料をすべて採掘・加工することになります。それらすべてが完了したら、タマネギを育て、収穫することができます。しかし、これらのことを1人で行うには何世紀もの時間がかかるかもしれません。

しかし、私たちの人生はわずか80年ほどしかありません。人生の約4分の1は、大人になり、病気や老いと闘っています。残りの4分の3の半分は睡眠や休息の時間です。全人生のうち残った約8分の3の時間は、大人としての機能を十分に果たすための時間です。

時間を止めることや人生を無限に長くすることはできないので、限られた人生の中で自分が望むものを作る

¹⁰ 人生のある期間、何らかの目的のためにエネルギーを向けるとき、あなたはエネルギーと時間を、エネルギー保存の物理的法則により、そのエネルギーと時間に相当する製品に変換しているのです。この変換プロセスは「労働」と呼ばれています。それはあなたの意志のプロセスです。考えること、愛すること、話すことなど、あらゆる方法で物事を行い、物を作ることがあなたの労働です。

労働の産物に関して言えば、あなたの人生のエネルギーと時間が消費され、変換されて製品となります。それらはかつてのあなたの一部です。なぜなら、あなたが次の瞬間に作るようとしている製品は、今のあなたから作られるからです。このプロセスは元には戻せません。

ためには、誰か別の人の人生の時間を手に入れるしかありません。私たちは自分の人生の時間を同時代の人々の時間と交換したり、蓄積したり、放棄したりすることができますだけでなく、先に生きた人々の人生の時間を使ってそれらを行うことができます。将来の世代も、私たちの人生の時間を使って同じことができます。

つまり、時間は私たちの人生の通貨なのです。

しかし、時間に関してこれらのことを成し遂げるためには、2つのものがが必要です。私たちのエネルギーと、人生のある時間においてそのエネルギーを何らかの目的に向けて注ぎ込む意志です。その過程を「労働」と呼び、その結果として、製品を作るために使った人生の時間とエネルギーに相当する製品ができあがります。

私たちがお金を使うのは、労働の産物を表すためであり、人生の時間とエネルギーを象徴的に蓄えるための手段です。あなたは自分が所有するお金を、他者が人生の時間とエネルギーを使ってあなたのために作ってくれた商品やサービスである労働の産物に変換することができるのと同じように、彼らは所有するお金を、あなたが人生の時間とエネルギーを使って彼らのために作る労働の産物と変換することができます。

物理的な形を超えてお金を理解すれば、お金に対する人間の行動の全容を理解するのが簡単になります。それは、生存と繁殖のための本能です。死の床についたとき、1年、1日、あるいは1秒でも長く生きるために、あなたは何をしますか？ある人はそのために戦ったり、殺したりするでしょうし、ある人は仲間のために思いやりを持って時間とエネルギーを私心なく捧げるでしょう。人間は死ぬ運命にあるので、自分の人生でできることの効率を上げたり、一人では達成できないことを実現するために、他者の人生の時間を利用しようとしています。

私たちは、人生の時間やエネルギーを蓄える手段としてのお金について、さまざまな問題を抱えています。

無人島に置き去りにされた人たちが、ボトル1本の水を持っているとします。制限すべきときに飲んでしまったり、他の人が背中を向けている間に自分の分以上に飲んでしまったりするかもしれません。他の人よりも多くの水を集めるのが得意な人もいれば、もっと多くの水をもらう権利がある、あるいは他の人の水をもらう権利があると感じる人もいます。自分が生きていくために必要な最低限の量ではなく、喉の渇きを癒してくれるという期待感に比例して、水への欲求が高まっていくのです。愛情、同情、罪悪感、絶望、インスピレーション、恐怖などの理由で他者に分配する者もいれば、同じような不合理な理由で横取りする者もいるでしょう。漂流者たちは、誰がボトルの管理者になるべきか、どのように分配量を定めるべきかについて議論するかもしれません。ボトル自体にも問題があるかもしれません。水漏れしたり、簡単に砕けたり。またコルク栓がなければ、誰も飲んでいないのに水が蒸発してしまい、今日よりも明日の方が渇きを癒せる人が少なくなってしまうかもしれません。

水のボトルの場合と同様に、人間の人生の時間とエネルギーのボトルとしてのお金にも、同じような欠点があります。

1. お金は約束事です。お金は他者のために何かをするために、自分の人生から時間とエネルギーを捧げることを義務づけていますが、義務の履行は私たちの言葉と同じ程度にしか強くありません。
2. 仕事の効率は人によって異なります。たとえそれがほんの一瞬の差だとしても、その差が蓄積され、最終的には人や国の間に顕著な富の差をもたらすのです。
3. 私たちは非合理的です。人が人生をかけて商品を作るための時間、エネルギー、効率を正確に計算することはできません。買い手が商品の製造や、その製造に必要な他のすべての商品やサービスから遠ざかれば遠ざかるほど、その商品の価値に対する評価は現実から離れたものになります。私たちは、この情報の欠如を、感覚的・感情的な手掛かりの非合理性に置き換えています。

なぜ私たちはもっとお金が欲しいのでしょうか？

宇宙は全体として無秩序の方へ傾いています。11しかし、すべての生物は、繁殖のために生き延びるために、「局所的に」（個々の生物の内部で）秩序を高めていきます。そのためには、自分の時間とエネルギーの消費を最小限に抑え、他の生物や環境からのエネルギーを最大限に利用するのです。このような利己主義は、各生物が生命の誕生と成長に必要な宇宙の局所的な秩序を作り出すための最も効率的な方法であると思われます。人間も同じです。他の生物（仲間である人間を含む）の時間とエネルギーを最大限に利用し、自分の消費を最小限に抑えることで自分のエントロピーを下げようとします。お金は人生の時間とエネルギーを蓄え、交換する手段であるため、人間はお金を他の時間やエネルギーの源と同じように扱うのです。

このように、お金はすべての発明の中で最も貴重なものかもしれません。お金は、生存性や再現性を向上させただけでなく、それを超えることを可能にしました。人が取引をするということは、自分の労働よりも価値があると判断した相手の労働を求めて交渉するということです。12 それは、限られた時間とエネルギーを効率的に使うことでパイを大きくし、人類全体の繁栄を図るための唯一の方法です。そうすることで、私たちは健康を増進し、寿命を延ばして、人生で使える時間とエネルギーをさらに増やしてきたのです。

11 熱力学第二法則では、閉鎖系のエントロピー（無秩序さの尺度）は決して減少しないと定めています。アーサー・エディントン卿は、「エントロピーが常に増大するという法則は、自然の法則の中で最高位を占めていると思う」と述べています。生命は第二法則に反しませんが、そもそもなぜ生命が誕生するのかという問いについては、物理学者たちも頭を悩ませてきました。最近になってジェレミー・イングラント教授は、生命が存在するのは、エントロピー増大の法則によって物質が生命のような物理的特性を獲得するためだと提唱しています。物質が、より多くのエネルギーを散逸するために自らを再構築するのです。

12 私のビジネスの定義

人類は、生物学的な進化によってだけではなく、知性の力によって総合的な豊かさ（長寿、自然力によるリスクの軽減、健康など）を高めることができました。それを可能にしているのが、時間やエネルギーを蓄えたり使ったりするための代理としてのお金です。自然界には、細胞同士がアデノシン三リン酸（ATP）を利用して取引するなど、このような経済が溢れています。

お金は文明の種かもしれません。

これを理解するために、私があなたからお金で商品を購入し、あなたがそのお金を燃やしたとします。そこでは何が起こったのでしょうか？単に紙を失っただけでしょうか？そうではありません。同じ製品を再び作って販売するためには、あなたの労働力を使って製品に変換されたときに使われたのと同量の、あなたの人生の時間とエネルギーが使われなければなりません。つまりあなたは自分の人生から時間とエネルギーを失ったのです。ただし、コストはもう1つあります。再生産のための追加コストがかかるので、あなたのコミュニティの発展が妨げられます。それが機会費用です。あなたはその時間とエネルギーを使って、コミュニティの発展のためにもっと良いものを作ることができたはずです。

同様に、人々が代理を公平に使用しない場合（例えば、お金を印刷したり盗んだり）、全体の繁栄が損なわれます。時間とエネルギーを蓄える効率が悪くなるのです。バブル、好景気、不況などは、私たちの不合理な判断、お金の欠点、個人の主権の侵害によって引き起こされる非効率性です。

時間（人生の時間）は、私たちの人生の通貨です。自分の時間とエネルギーを賢く投資することで、人生のバランスシートに様々な利益がもたらされます。

全体主義

あなたは、自由に対する最大のリスクです。

あなたの主権は、あなたの労働の産物の報酬を得る権利をあなたに与えます。しかし、報酬にはリスクが伴います。あなたの製品、主権、存在に対するリスクです。自分でリスクを軽減しようとする、または誰かにお金を払ってやってもらうことができますが、その場合、お金を払うには自分の主権を通貨として使うしかありません。言い換えれば、主権の一部を他の人に譲る代わりに、主権の残りを守るための安全なサービスを提供してもらうことができます。

どのような取引においても、買い手と売り手はお互いに責任を負っています。八百屋さんが虫のついたリンゴを売ってしまったら、怒った買い手にそれを突きつけられた時には、返金したりリンゴを交換したりするかもしれません。もし八百屋が償いをしなければ、買い手は自己負担することになりかねません。だから、誰かが取引条件を守らないときには、安全のサービスが役に立つのです。

なぜでしょうか？

リンゴの買い手と売り手が、コミュニティの他のすべてのメンバー、つまりコミュニティの政府から安全のサービスを買っているとします。その場合、コミュニティ内のすべての買い手と売り手の間の合意条件を、彼らの私的な取引において均等に執行する機会があります。

リンゴの場合と同じように、安全というサービスを売買することも取引です。例を挙げるときりがありません。裁判所は、法廷に立つ人々の主権を守り、犯罪者には罰を与え、被害者には損害賠償を与えます。親は、衣食住や愛情などと引き換えに主権を制限して幼い子供を守ります。裁判所と親は、主権という通貨でのみ支払いを受けます。

しかし、このようなサービスには限界があります。主権を通貨にするのと、労働の産物を通貨にするのとは違うのです。政府の条件は厳しく、生涯契約、返金不可、キャンセル不可です。13サービスに不満を持つ人がいれば、政府は改善のために全員の主権をもっと要求するかもしれません。さらに、メンバーは武力行使の権利の一部または全部を政府に譲らなければならない、その結果、政府はメンバーに対する武力行使権を独占することになります。

また、サービスが破壊されることもあります。虫のついたリンゴを買った人が苦情を言うと、政府の代表者は武力行使の独占権を使って、八百屋に虫のついたリンゴ1個を10ブッシュェルの良いリンゴと交換させ、その過程で上前をはねるかもしれません。さらに悪いことに、もし政府が全体主義者に支配されていたら、共同体の構成員に主権がなくなるまで、安全サービスの価格を着実に上げていくでしょう。

では、全体主義者とは何でしょう？

安全サービスを提供する人すべてが全体主義者というわけではありませんが、全体主義者は全員そのようなサービスを提供します。全体主義者は、イデオログか詐欺師です。全体主義のイデオログは、批判を理解しますが、リスクは理解しません。全体主義の詐欺師は、その両方を理解します。そして、各タイプは、安全サービスを売り、主権という通貨でのみ支払いを受けることで生き延びているのです。

全体主義的なイデオログは、論理的な推論能力に欠けているため、リスクを理解しておらず、それゆえに比率の感覚がありません。起こりうることはすべてきつと起こると恐れているので、架空の脅威から身を守るために、インチキな解決策を広めることになってしまいます。この架空の脅威とインチキな解決策はいずれも全体

¹³ ほとんどの子供たちは、親が提供する安全のためのサービスを卒業するだけです。

主義の詐欺師がでっち上げたものです。イデオログは、自分の意見の絶対的な正しさを確信しています。それは、自分が助けようとしている人々を含め他の誰よりも自分は高潔であると信じているからです。詐欺を見破っている人でさえ、インチキな解決策の拡散に協力する可能性があります。イデオロギー的なヒステリー中で、高潔でないことを指摘されたい人はいません。理由が何であれ、保護と引き換えに自分の主権を放棄して、イデオログに賛同する人は常にいるのです。

イデオログは、架空の脅威そのものよりも批判を恐れるため、自らを狂信的に駆り立てます。そうした人はまず、保護の対価として人々に主権の放棄を求め、それから主権を要求します。最終的には、絶対的な支配が脅威を排除し、それゆえに批判を排除できると信じているので、彼らは気まぐれに主権を奪い、同じイデオログとして仲間にできない者を破壊します。一方で、イデオログたちは自分たちの偽善には気づきません。盲目的な情熱が燃え尽きると、内省的になれる人もわずかにいます。そのとき初めて、自分たちが仲間にもたらした破壊を知ることができるのです。その少数の人々は、自分たちが作り出した怪物から逃れて生き残った場合には、皮肉屋になります。

全体主義の詐欺師は、リスクを熟知した巧みな操り手であり、それゆえに、詐欺全体を仕切ることができません。架空の脅威とそれに付随するイデオロギーを作り、主権者を恐怖で狂わせ、保護の代償として主権を放棄するよう仕向けるのです。全体主義のイデオログは不器用で模倣的であるのに対し、全体主義の詐欺師は巧妙で創造的です。イデオログは詐欺師の数を圧倒的に上回り、後者は前者の波に乗って台頭します。詐欺師は、イデオログが皮肉屋になることを知っているので、詐欺師はイデオログを利用したら破壊します。犠牲者が十分な主権を放棄した後、全体主義者は、イデオログであれ詐欺師であれ、残りを力づくで奪い取ります。

ヒトラーやスターリン、毛沢東のような規模の、他の人から何も言われていない全体主義者について、私は何も言うことはありません。ここでは、全体主義者の定義を拡大して、たとえ奪取の規模が一人の人間に限られていたとしても、人間の労働による産物のすべてを支配しようとする者を含めることにします。

あなたはどうすれば自分の自由を守ることができそうですか？

ガンの場合と同じように、全体主義者の場合もまた、早期発見によって生存の可能性が最も高くなります。全体主義者はあなたの最も身近なところで生まれます。しかし、あなたの発見の精度は、あなたが見たいと思っている人の姿ではなく、人のありのままの姿を見る能力と、見つけたものに対して行動する勇気にかかっています。明白なものを探してはいけません。次のヒトラー、スターリン、毛沢東（ステージ4のガン）を発見したときには、あなたはすでにすべてを失っているでしょう。見知らぬ人、知人、友人、そして家族でさえ、あなたの主権を奪うことができます。カルトのリーダー。人を操る同僚。大げさな上司。過度に熱心な教授。司祭。虐待する親、配偶者、子供。多くの方は、自分が奪取されていることにすら気づいていません。しかし、ほとんどの人は、自分が奪取しているときには完全に理解しています。

まずは鏡を見て、搜索を始めましょう。

国家と主権の通貨

「お金」の場合と同様に、ほとんどの人は「国家」と「政府」を理解していません。これらの概念を理解すれば、全体主義者がどのように行動するかを理解できます。そうすることで初めて、日常生活を悲惨なものにする多くの雑魚を含め、全体主義者を排除することができます。

人々がコミュニティを形成するとき、彼らはお互い
に取引を行っています。それぞれの主権、つまり自分た
ちの存在が、この取引の通貨となります。各人は、自分
の主権の一部をコミュニティや「国家」と呼ばれる抽象
的な存在に譲ることで、利益になるものを他の人々から
買っているのです。このように、コミュニティは主権を
持つと言われています。しかし実際には、コミュニティ
のメンバーはコミュニティの主権を行使するためには、
コミュニティの中から個人グループを代表に立てなけれ
ばなりません。このグループは「政府」と呼ばれ、取引
のルールを監督する政治的権限を有し、ルールを執行す
る物理的な力を独占しています。

これを行う前提は、安全サーピスを作るということ
です。つまりコミュニティのあるメンバーを他のメン
バーによる危害から守り、コミュニティ全体を他のコ
ミュニティによる危害から守り、コミュニティの全メン
バーのためのルールを均等に運用したいのです。各メン
バーは、自分の主権の一部を通貨として使用し、保護の
対価を支払います。

取引を実行するためには、コミュニティのメンバー
が互いに合意して、「誰が何をいくらで手に入れるかを
誰が決めるのか」というルールを確立する必要があります。
合意の中心は次のとおりです。(1)メンバーの入
会、退会、処罰のルール、(2)コミュニティからの利益
を得るために各メンバーが放棄しなければならない主権
の量、(3)各メンバーが受けるべき利益、(4)メンバーの
代表者の政府への委任（選挙によるもの、遺伝によるも
のなど）、(5)代表者の権限（限定的、独裁的など）。
合意とそれが規定する取引は、国や州だけでなく、部
族、町、会社、教会、クラブ、さらには家族に至るま
で、すべてのコミュニティの基礎を形成します。

合意の具体的な部分と抽象的な部分の違いを整理し
ておきましょう。

各人の意志、労働の産物、労働の産物に対する支配
権（すなわち主権）は有形です。国家や政府は意志を持

たず、したがって意思決定を行うことも、価値を持つことも、費用を負担することも、給付金を支払うこともできません。その代わりに、コミュニティのメンバーは代表者を選ばなければならず、各メンバーは自分の主権の一部を代表者に委ねて、自分に代わって意思決定をしてもらうこととなります。各メンバーが主権を放棄し、すべての代表者が主権を受け取ることは、国家と政府という抽象的なデバイスによってのみ可能です。

「抽象的」とは役に立たないという意味ではありません。国家はコミュニティの全メンバーの代理人なので、人々は、（出生、死亡、移民、移住などによって）コミュニティに加入したり、脱退したりすることができ、その都度、全当事者間で契約条件を再交渉するという手間をかける必要はありません。しかし詐欺師は、「社会の価値」「社会的正義」「社会的責任」という抽象的なデバイスに基づいた論理的誤謬を作りだし、人々を騙して主権を放棄させ、彼らをイデオログに変えてしまいます。

合意が機能するためには、その定義、規則、有形部分、抽象部分のすべてが、人間における物理法則の現れ（例えば、存在、意志、労働）および人間の行動と調和する必要があります。熱力学の第二法則により、人間は常に労働の支出を節約する一方で、労働から得られるリターンを最大化します。したがって、どのようなコミュニティにおいても、各メンバーは、自分がコミュニティの他のメンバーから受け取る労働の産物を最大化する一方で、自分の労働の産物から他のメンバーへの支払いを最小化します。欲、公正さ、道徳などは関係なく、行動は物理法則の結果なのです。各メンバーは、例えば、政府の代表者が自分の利益に有利になるように働きかけます。

合意には、古代の宗教的な規定と現代の世俗的な規定が複雑に絡み合ったものや、親が家族のために定めたルールなど、さまざまな形があります。合意には、非言語的なもの、言語的なもの、書面によるもの、またはそ

これらの組み合わせがあります。合意が人間の物理法則の発現と合致していなければ、そのコミュニティは本質的に不安定であり、やがて崩壊するでしょう。全体主義的な「合意」¹⁴は不安定です。なぜなら、全体主義者は、主権を持つ個人の保護に関するインチキな解決策を売り込むために架空の脅威をでっち上げることを生きがいに行っているからです。

例えば、ヒトラーは、国家社会主義というインチキな解決策、つまり国家による安全や保護のサービスを売り込むために、ユダヤ人がドイツ人にとって存続にかかわる脅威であると非難しました。その脅威は架空のものだったにもかかわらず、ほとんどのドイツ国民の心の中に現実のものとして存在させたので、国民は自発的に個人の主権の一部を使って解決策の代価を支払ったのです。彼らが十分な額を使った（つまり放棄した）後、ヒトラーは残りの主権を力づくで奪い取りました。彼らの合意は、他国との世界大戦を引き起こし、ヨーロッパのユダヤ人の3分の2を根絶やしにし、ドイツを破滅させ、世界各地で死と破壊をもたらしたのです。

君主

君主とは、超自然的な神（または神々）が自分たちの生活に影響を与えており、その神が君主に国家の政治的権限をに与えて神に代わって行動することを、十分な数の迷信的なコミュニティのメンバーに信じ込ませる全体主義者です。この権限の付与は、死後の世界という偽りの約束（見方によっては脅し）に包まれた、インチキな解決策です。信者が最も望むもの（例えば、不死、楽園、涅槃、輪廻）には、彼らが最も脅威だと考えるもの

¹⁴ 「左」から「右」までの政治的なスペクトルはありません。あるのは物理法則との矛盾の度合いだけです。マルクス主義者とファシストは同じです。

(罰)が含まれています。脅威と解決策はほとんど同じものであり、全体主義者の詐欺師の傑作なのです。

成熟したときには壮大になりますが、新しい君主制は小さな集団、すなわちゆるやかな協会、部族、一族などから生まれます。他のコミュニティの場合と同様に、各メンバーは自分の主権の一部を国家に委ね、その代わりに他のメンバー全員から利益を得ます。彼らは代表者を任命し、統治の仕事任せます。しかし全体主義者は、自分が彼らの神の代理である、あるいは彼らの神であると十分な数のメンバーに信じ込ませ、与えられた政治的権限を使ってコミュニティのすべての人の主権を奪い取ります。その手先の早業は、「王権神授説」として知られる古い詐欺です。また、「誰々は本当は神ではない。彼はただの象徴にすぎない。」という議論に騙されてはいけません。全体主義者が神のように行動し、人々から神として扱われるなら、彼は詐欺を働いたことになるのです。

古い君主制では、何十年または何世紀にもわたる拡大が、その起源の陳腐さを覆い隠します。王権神授説は、コミュニティのメンバーの心の中で自明のものになります。必ずしも全員というわけではありませんが、詐欺と強制による主権の奪取を維持するのに十分な数です。

皇帝、王、法王、スルタン、マハラジャ、ツァーリ、シャー、シーザー、ファラオ、ムラ、司祭、ラーマ、最高指導者、サパ・インカ、スピリチュアル・リーダーなど、この他にも何千もの称号がありますが、これらはすべて「君主」を意味します。

なぜ主権を放棄してまで全体主義者の話を信じようとする人がいるのでしょうか？

迷信とは、臆病、恐怖、そして知的怠慢です。臆病者は、死が決定的なものであることを知っています。それは彼らを石化させます。人生もそうです。詐欺師やイデオログは、臆病者が最も望んでいるものを約束しま

す。すなわち、今日の自分の主権、つまり自分の存在を犠牲にする代わりに、死後の不死の恩恵を約束するので。そこで臆病者は、全体主義者が約束する天国、楽園、輪廻転生、その他この種の空想的なフィクション、つまり、今日の人生を整理しなかったことを許す「セカンドチャンス」に安心感を覚えます。臆病者は利益を買うのではなく、自分が死んだ後に名誉を与えられるという確信を持った利益の約束だけを買います。そして、全体主義者の請求書を支払うために、自分の主権という通貨を使うのです。人々が神や神々を信じるときはいつでも、現実世界のエージェント、つまり生きている人間に、想像上の超自然的な世界へのとりなし（またはその代表者）になってもらいたいと思うものです。この古今東西の不条理劇における君主の役割は、そのエージェントです。

君主も詐欺師に騙されることがあります。

貴族や聖職者などの宮廷人の側近は、君主をの一般市民から隔離し、それによって、王権神授説の背後にある真実を両当事者から隠します。聖職者は、君主を宗教的な儀式に制限し、自分の神性を信じるように洗脳します。側近は、若い君主（実際には少年）と側近の女性から選択的に後継者を産ませ、側近の支配力をさらに強めます。公の世界では、君主は少年時代に即位し、10代か20代で退位して次の少年に継承します。実権を握っているのは、王位の背後にいる摂政です。聖職者の仕事は、摂政に国家（つまりコミュニティのメンバー）に対する政治的権限を与えるべく、詐欺の作り話を維持することです。

このようにして王権神授説は、十分な数のコミュニティのメンバーの心の中で公理として固まり、心のウイルスとして後世に伝えられていきます。この手口は効果的であり、だからこそ何千年もの間、王国、帝国、王朝の設立、維持、拡大のために利用されてきたのです。

知識階級

知識階級とは、「なぜ彼らは（このような）ことについて何かしないのだろうか」「なぜ彼らはガンの治療法を見つけないのか？」「なぜ彼らは学校制度を直さないのか？」「なぜ彼らは医療費を無料にしないのか？」というような、常人の半分不満、半分批判における「彼ら」です。

しかし常人は、「彼ら」と呼ばれる全知全能の存在が自分の代わりに願い事を聞いて何かをしてくれるかのように、願い事を空中に向かって叫ぶので、決してパンチを決めることができません。「彼ら」は顔を持たず、したがって、労働者階級に対して責任を負いません。残念なことに、この状況は、知識階級の中の全体主義者が主権を自由に奪取することを可能にします。20世紀と21世紀において、知識階級の全体主義者は、犠牲者が「彼ら」、すなわち知識階級よりも知的にも道徳的にも劣っていると信じるように犠牲者を騙すことによって、「王権神授説」に似た詐欺を行ってきました。

なぜ知識階級には全体主義者が多いのでしょうか？

一般的に、才能のある子供たちは、世界が論理的で公平であることを望み、平凡なことや繰り返しの多いことに不満を覚えます。子供の頃から他の子供よりも頭が良いと褒められ続け、大学を卒業する頃にはそれを信じてしまう人もいます。さらに悪いことに、自分は無教養と呼ばれる人たちよりも道徳的に優れていると信じてしまうのです。

正規の教育は、子供の批判的思考力と識別力を根絶することでその役目を終えます。ショーペンハウアーは次のように書いています。

人工的な教育¹⁵では、直観的な知覚の世界に触れる前に、講義を受けたり教えられたり、本を読むことによって、頭の中に概念が詰め込まれます。そして経験とは、これらの概念に対する直感的な知覚を提供するものと考えられます。しかしそれまでは、直感的な知覚が誤って適用され、その結果、人や物事が誤った観点から判断され、誤った光で照らされ、誤った方法で扱われるのです。このように、教育は歪んだ偏った心を生み出します。これが、私たちが若い頃、多くの学習や読書をした後に、ある時は愚か者として、ある時は変人として社会に出て、ある時は神経質に、ある時は軽率に行動する理由です。私たちの頭の中には、今、適用しようとしている概念が溢れていますが、ほとんどの場合、誤った判断と不条理な方法で導入してしまいます。これは、*ὑστερον πρότερον*¹⁶によって、最初に概念を得て、最後に直観的な認知を得るといふ、自然な流れとは正反対の方向で私たちが精神発達をした結果です。教師は、子供が自分で見極め、判断し、考える能力を育てるのではなく、他者の既成概念を子供の頭に詰め込むことだけを考えています。誤った概念の適用から生じたすべての判断を修正するには、長い経験が必要です。これが完全に成功することはめったにありません。したがって、無学の人にはしばしば備わっている普通の常識を持った学者はほとんどいません。

親や先生、教授に育てられた子供たちの中には、他者を苦しめるモンスターに成長してしまう者もいます。ジュヴェネルは、知識人は他者のニーズを満たすために何かを作らなければならないことを嫌う、と仮定しました。ハイエクは、知識人はすべてのものが人間の論理によって設計されなければならないと考えていると指摘しました。

¹⁵ ショーペンハウアーは、人工的な教育と自然な教育（つまり、理論ではなく経験）を対比させていて「概念は直観的な認知から抽象化されて生じるべきであり、したがって後者は前者の前に存在すべきなのです。」と言っています。

¹⁶ 先行者と後続者の混同（「馬の前にカートを置く」）。

最も多くの人々にとって良い結果をもたらすには、自由な選択という厄介で予測不可能な、計り知れない、制御不可能な自然の世界を経由するしかないことを、知識人は理解できません。このような世界は、彼らが力で他者に押し付けようとしている中央計画システムという抽象的な策謀に対するアンチテーゼです。そもそも彼らを「才能がある」人にした行動には、トレードオフがあります。それは、彼らが非論理的で不公平だと感じる個人の自由な選択から生じる結果に対する不寛容さです。不寛容さに突き動かされて、彼らはコントロールできないものをコントロールしようとする無駄な試みとして、より多くの主権を奪おうとするコミットメントを非合理的にエスカレートさせ、全体主義へと深化させていきます。

知識階級の中でも全体主義的な傾向を持つ知識人は、社会を助けると公言するいわゆる教養人ですが、心の中では自分が軽蔑する下層階級を支配したいと考えています。彼らのほとんどは、過去数世代の間に下層階級から這い上がってきたため、そこには自己嫌悪があるのです。無限の傲慢さを持つ真のナルシストである全体主義的な知識人は、自らの知的能力に夢中になっています。そういう人は、肉屋、パン屋、燭台メーカーの中にはいません。トイレの詰まりを取り除き、髪を切り、食卓のために食肉処理をする人々は、「教育を受けていない」犠牲者の典型です。全体主義の知識人は、権威に基づく議論や知的いじめを用いて、彼らを服従させます。抑圧者は被害者に深い劣等感と依存心を抱くよう操り、被害者が熱狂的に彼らを支持するようにさえ仕向けるのです。

この筋の全体主義者は、現代の強大で、難解で不可分な画一的な組織、すなわち、学界、政府官僚、メディア・娯楽産業、ウォール街、大企業から支配しています。彼らは、学者、法学者、政策立案者、規制当局者、科学者、教育者、経済学者、ジャーナリスト、芸術家、医師、司祭、映画監督、作家、プロの経営者層などの

「専門家」の中に溢れています。社会の中で最も特権的で強力な存在でありながら、階級、人種、性別といった自分たちとは何の関係もなく、自らが嫌悪しコントロールしようとする「より劣った」人間と大いに関係のある問題で苦難を強いられていることに泣き言を言うのです。

全体主義の知識人のゲームでは、知識人の利益はあなたの損失となります。知識人は自由選択に基づくどの市場でも自分の労働の産物を取引¹⁷することができないので、個人の主権は他者が主権を失うことでしか得られないという嘘を広めることで、あなたに見返りを強要してくるのです。全体主義的な知識人は、自由についての人々の理解を混乱させ、自分の人生を守ろうとしている人を弱体化させるような言動をします。詐欺に気づき、自分の主権を守ろうとする個人が最初のターゲットとなります。全体主義の知識人は、嘘を用いて彼らの中傷し、愚かな者、不道德な者、狂信的な者、利己的な者などの烙印を押すのです。そうすることで、主権を守るためには奪取が必要だという誤った前提のもと、主権を奪います。犠牲者は、高潔であろうとするあまり、この前提を信じて支持し、自らを破滅させることになるのです。

そして全体主義的な知識人は次に、自分の機関（つまり自分自身）が、個人に権利を与えたり取り消したりする権限と知恵を持っているという誤った基本原則を広めます。彼は自分の支配を確立する条件付きの法律を押し進めて個人の主権を侵食し、あなたが永久に頼ることができないようにするのです。エドワード・ルイス・バーネイズが以下のように書いたように、そういう人は巧み

¹⁷ 知識人の労働の産物はアイデアですが、そのほとんどは彼の仲間にとって価値がないものです。変な髪型にする床屋さんや、貧弱な土台を作るレンガ職人とは違い、知識人は悪いアイデアをコミュニティに送り込み、その損害に対する責任を少しも負いません。

に自らに権限を与え、人為的な同意によってあなたの労働の産物を没収します。

国民の意見が政府をコントロールするものであるならば、これらの意見が政府によってコントロールされてはなりません。政治的な広告や操作が行われる現代の状況下では、専門家やプロの政治家のエリートによる同意の操作について語る事が可能になっています。このようにして人為的に作られた同意は、現代の全体主義政府を支えている同意と根本的に区別することが困難です。操作された有権者が通常の有権者になったとしても、その人が支持する政府は、その言葉の伝統的な意味での彼の同意の上に成り立っているとは言えないでしょう。

全体主義的な知識人は、自分たちのアジェンダを進めるのに十分な転向者がいない場合、自分たちが軽蔑していても他の階級や社会の片隅にいる全体主義者と日和見的な同盟を結びます。すると全体主義的な知識人の政治運動は、非論理的で矛盾したイデオロギーの奇妙な寄せ集めになります。機会があり次第、彼らは覇権を握るためにお互いを激しく攻撃します。派閥にまみれた政治運動は、自分たちが支配しようとする民衆にその争いを投影し、民衆は自らを引き裂くことになるのです。

他者の主権を奪うことが正当化されるのは、自分自身の主権を守る場合に限られることを認識することで、知識階級の全体主義者から身を守り、自分自身もそうならないように予防しましょう。正しい行いというものは大いに存在しますが、人間の存在とその労働の産物は本人のものであり、本人だけが好きにすることができるのです。あなたや私が、その人や別の誰かにとって最善だと思うことをしていいわけではありません。善意の名の下に、人間の労働の産物、つまり人間の存在そのものを奪うことは、人間の存在に対する非道な行為です。個人の主権の権利は、最重要で神聖なものでなければなりません。個人は、自分が適切だと思うことを自由に選択で

きなければなりません、それはその選択が他者の主権を侵害しない場合に限りです。

上司と同僚

知識階級の中の全体主義者は、例えば、手術のために6か月待たされるシステムを作ったり、退職時に基金のない年金であなたを驚かせたりするなど、何年もかけてあなたの自由を奪っていきます。一方、職場では、全体主義者はあなたの人生からエネルギーと時間を刻々と奪い取ることによって、あなたの主権を奪います。

偉そうな上司や同僚は、自分はこの分野の専門家だとか、この分野の責任者だとか、自分の長年の経験や資質を自慢します。彼らは知識階級では全体主義者になれなかったので、会社では無名の、それに劣らない醜い存在となり、ルールや「会社のやり方」というイデオロギーをあなたの頭上に掲げます。彼らはあなたを虐げながら、会社の階級における次のランクを掴もうとします。ほとんどの人は滑り落ちます。失敗にくじけない人は、明日また挑戦します。

オフィスでの全体主義者は、苦勞している社員を謙虚に助けることはなく、代わりに高圧的に諭したり、指をさしたり、いじめたりします。彼らは攻撃のために集まります。密室では胸を張って次の攻撃のために自分を奮い立たせ、ターゲットの耳に入っていないところでは、侮辱を楽しみ、嘲笑を浮かべます。ブランド力のある大企業は、このような人たちでいっぱいです。

人事部は従来、解雇できない無能な社員の廃棄場でしたが、今では個人の主権よりも政治的イデオロギーや会社の基本原則を広める全体主義的なイデオログの訓練の場となっています。

そのような人の心の奥底には、不安感があります。それは、自分が十分ではないという感覚であり、ひいては自己嫌悪だったりします。彼らは 「失敗した全体主

義者」なのです。彼らは、この不安感について一瞬でも考えることを自らに許すと震え上がりますが、その後はその不安感を深く埋めてしまいます。このような人は、喜んで自らの主権を誇りと交換します。自分を他の人よりも高める考え方、すべての人をおとしめる方法や考え方を広めます。彼らの不安、つまり恐怖は無限大なので、自分の人生と周囲の人々の人生のすべてを使い果たしてしまうまで彼らは主権を交換し続けます。

両親

子供は好奇心が旺盛で、それがすべての探究心の源となります。疑問があるからこそ、子供は答えを探究するのです。そうするために、子供は自分の才能を生かして、答えを発見、創造します。

「探求」というと、極地探検のような困難な探索を思い浮かべるかもしれませんが、簡単に言えば、「探求」とは、大なり小なり、どんな質問にも答えようとする人の努力のことです。難しい質問であればあるほど、子供は多くの才能を生かして答えを見つけなければならない（実際には創り出さなければならない）ため、探求は困難になります。想像力と機知に富んでいることへの要求は、探求に内在するものです。子供は探求を続ける中で、不安や痛み、ストレスを感じることもあります。しかし、そうした感情は、答えを見つけたときの満足感や喜びに変わります。このサイクルは、乳児にも見られます。乳児は、栄養を求める中で不安を感じても、母乳を飲むことで満足感を得ます。

好奇心、疑問、探求、発見のサイクルと、それに伴う感情は、人間が自分の人生に意味を生み出すために必要なものです。意味とは、生存（母乳で育つ乳児の例のように）や生殖から始まり、夢や野心の領域、そしてそれらを満たすための努力へと移っていきます。残念ながら、多くの若者は大学に入る頃になると、「人生に夢が

ない」「夢を持ったことがない」と言い出します。人生の夢を持ったことのない18歳は、全体主義的な親の仕業によるものです。

親が子供を育てるということは、必然的に子供の主権を奪うこととなります。正しく行われていれば、親は制約を課しますが、すべての答えを与えるわけではありませんし、少なくとも簡単には与えません。親の監督の下で、子供は好奇心、疑問、探求、発見のサイクルを繰り返し、それに伴う感情を経験することができます。感情はサイクルを繰り返すごとに深まり、ポジティブな行動が育まれていきます。

全体主義的な親は、子供の中でこのサイクルが形成される可能性を潰してしまいます。威圧的なタイプの親は、強硬な制約を課します。骨抜きタイプの親は、子供を自由にさせます。どちらのタイプも、すべての質問と答えを子供に押し付けるのですが、方法は違って、結果は同じです。教師も同様です。子供が高校を卒業する頃には、その子の自然な好奇心は、満足を得るのを遅らせる粘り強さとともに根絶されています。探究心もないので、人生においてなりたい自分を作るために必要なサイクルから得る感情ありません。ソーシャルメディアのオートマトンとして鍛えられた彼は、高校卒業後に待ち受けるものに対する備えができています。

さらに問題なことに、親や教師、教授は、人生で何をすべきかについての何らかの答えが魔法のように飛び出してくると信じ、学生が新しいアイデアや可能性に心を開くために、様々な分野の大学のコースを取ることを勧めます。このような前提のもと、好奇心を持たない学生たちが、卒業証書工場に過ぎない大学に大勢入学します。学生たちは、知識階級の全体主義者たちにイデオロギーを教え込まれる準備ができていない無気力で退屈な人々です。教授は、学生が何もせず、何も尋ねないにもかかわらず、すべての学生に最高点を与えます。なぜ大学に通うのかと問われると、学生たちは「お金が欲し

い」「お金を稼ぐには仕事が必要だ」「仕事を得るには大学の学位が必要だ」とつぶやきます。

すべての学生は、自分が何か重要なことを成し遂げたと固く信じて卒業します。卒業式では、親たちは我が子に与えた茶番を少しも反省することなく、我が子の「達成」に対してアザラシのように拍手します。一方、卒業式の壇上では、アカデミックな式服を身にまとった教員や理事たちが横目でお互いを見ながら、策略がバレる前に、いつまで茶番を続けて現金を搾り取ることができるのかと考えているのです。

全体主義的な親の子供は、自分に主権があること、ましてやその主権が奪われていることなど知らずに生きていく運命にあります。そして、自分の苦境に気づく唯一の方法は、人生の早い時期に失われた自然な好奇心を持つことです。このような子供は、このエッセイで述べられている他のすべての種類の全体主義者に一生従い、仕える準備ができています。

人生

人生の仕組み

同じ人間は2人としていません。したがって、機会も結果も平等ということはありません。18

もしあなたが人生を勝者と敗者のゲームとして見ているなら、あなたは自分の人生の管理方法を誤っていることになります。人生はゲームではなく、平等にするべき土俵は存在しないのです。他者の主権を奪うことなく、自分の人生でなりたい自分を創造するための唯一の手段を失わないために、宇宙における不平等の役割を理解しましょう。

生命は物質と情報から生まれます。19人間を含む生物間の物質と情報の違いが、それぞれの生物の活力となり、すべての生物は物理法則に従うのです。78億人の人間のうち、物質と情報が同じ人は2人といません。

コミュニティのメンバーに規則を平等に適用することは、個人の主権を守るために必要であり、それが個人の機会の自由20を生み出します。しかし、それはコミュニティのすべてのメンバーにとって平等な機会や平等な結果を生み出すものではありません。そんなことは不可能なのです。機会とは、何かをすることを可能にする一連の状況のことで、他者や国家から与えられるものではなく、個人が自分のために作り出すものです。人々の間には常に情報の違いがあり、その違いを利用して自分だけのための機会を作り、実行することができます。たと

18 ここでいう平等とは、「質、性質、地位が似ている」という意味です。

19 ポール・デイヴィス教授が提唱しています。

20 主権を持つ個人は、自分で作った機会を自由に利用することができます。

え小さなものであっても、そのチャンスを生かそうとすることも、滞らせることもできます。

選択の自由と市民への平等なルールの適用がおおむね存在する社会では、ほとんどの裕福な人は、裕福になる資格があるから裕福になったのであって、泥棒や幸運だから裕福になったのではありません。21結果が出るまでに数十年、数世代かかるかもしれませんが、最終的には能力が勝るのです。この条件は彼らの子孫にも当てはまります。相続した財産を維持できる人、ましてや増やせる人はほとんどいません。豊かさとは、自分の創造性と他者に対するその価値を自らの手で高めていくことで得られる副産物です。お金持ちは、銀行口座にある金額ではなく、自分の創造力が持つ力によって価値を測ります。彼らにとっての1ドルは、隣の人にとっての1ドルと同じように価値がありますが、彼らは、お金がいくらあってもなくても、他者に対してより大きな価値を生み出すことができることを知っています。そして、他者のために価値を創造することが、人生でなりたい自分を創造するための唯一のメカニズムであることを知っているのです。

対照的に、お金を搾取したり、お金をめぐって激しく争ったり、成功を妬んだりする人は、創造者としては無能です。彼らは人からお金を搾り取ることに執着し、それがお金を得る唯一の方法だと考えています。真の全体主義者である彼らは、自分のものではないものを真っ先に手に入れようとし、自分に代わって政府が銃口を向けてそれを行うことを提唱するタイプです。自らを向上させ、ルールの不平等な適用を是正するために戦うこと

²¹ 富の創造と全体主義的な主権の奪取とを混同してはいけません。裕福な人が全体主義者であるとは限らないし、貧乏人が全体主義者であるとも限りません。全体主義者は、社会のあらゆる階層にはびこっています。娘をお見合い結婚させる父親などは、数え切れないほどある例の一つです。裕福な全体主義者の場合、彼らは価値を創造する方法と、それを奪う方法を知っています。貧しい全体主義者は、価値を奪うことしか知らず、それさえうまくできません。

はせず、自分の欠点から生じる結果を他者のせいにして、ルールを自分に有利にしようとします。彼らは、お金をたくさん持っている人はその価値を低く評価している信じ、1セントに至るまで自身の存在そのものに由来していることを浅はかにも軽視しています。

物価、給料、株価、レストランでの割り勘、他人の財産などに頭を悩ませている人は、後者の部類に入ります。お金に対する欲求や不安は、人のために価値を創造する能力に反比例します。

豊かさの創造

なぜ裕福になるのは難しいのでしょうか？

チャンスは、リンゴが木から落ちるように頭の上に落ちてくるものではありません。自分で自分のために作らなければならないのです。残念ながら、人は自分を欺くことに長けています。多くの人が人生の仕組みを理解できるとしたら、その頃には、自分の人生を正しく管理する能力を身につけるための時間がほとんど残っていません。そして、自分のための機会を十分に創造し、活用する前に死んでしまうのです。

これまでの人生で、自分よりも貧しい世界の90%の人々の財産について心を悩ませたことはありますか？ 22もちろんありませんよね。では、なぜ自分よりも豊かな人のことを気にするのでしょうか？

他者と自分を比較し、自分が発見したことを嫌い、貧困マインド自分を騙すことはよくあることです。言い換えれば、彼らは受動的になり、存在しない神からの指示や救済を待ちながら、そのような行動から得られる悲惨な結果を喜ぶのです。そうすることで、他の人よりも

22 アメリカの50%の世帯の純資産は、世界の90%の世帯よりも多いです。アメリカの最貧困層20%の世帯は世界の50%の世帯よりも裕福です。

徳が高くなり、死後の世界で優先的な席に座れると信じているのです。もう一つのイデオロギー的な妄想は、「一人の損失は、他の人の利益」という架空の世界では、自分は被害者であるというものです。

貧困マインドは世代から世代へと受け継がれます。親は子に感染させ、生涯にわたって不自由な生活をさせることとなります。貧困マインドというウイルスを自分の子供に感染させることは、子供を鎖につなぐことよりも重大な忌まわしいことです。少なくとも、奴隷は自分が奴隷であることを知っています。家族や友人、コミュニティのメンバーは、文化を利用して貧困マインドを強化することに余念がなく、それにより貧困マインドから抜け出すことはほとんど不可能になります。仮にそのような人が人生の仕組みを理解し、正しく人生を管理し始めたとしても、貧困から這い上がるには何年もかかるでしょう。一生かけて追いつこうと思ったら、先祖代々の失敗を取り戻さなければなりません。

人と比べたり、お金や評価を追い求めたりするのではなく、なりたい自分を作るために人生を正しく管理することで、豊かさは生まれます。自分の手でどう自分を向上させなければならぬかを深く考えてみてください。人生の管理を始めるのに遅すぎるということはありません。「木を植えるのに一番いい時期は20年前。その次にいいのは今である」という格言があります。不平不満は禁物です。仕事に取りかかりましょう。

繁栄への道を歩む上で最も大きなリスクはあなたです。自分のことを知らず、人の意見を気にするのは最も愚かなことです。そう、必ず誰かがあなたの足を引っ張り、人生を管理するための行動を思いとどませようとするのです。「できない」と言う人は、「やり方がわからない」ということを意図しているに過ぎません。すべての人が、あなたや他の人が知る余地もない、したがって気にすることもできない個人的な戦いをしているのですから、なぜその逆は真実ではないと思うのですか？

あなたの夢、意見、悩み、成功、失敗、外見、ソーシャルメディアの投稿など、誰も少しも気にしていません。他の人が自分のことをどう思っているかを気にしているのであれば、気にしないでください。なぜなら、他の人はあなたのことを考えていないからです。つまり、あなたも自分のことを考えるべきではありません。自分のことではなく、自分が創造しているものに集中しましょう。自尊心は関係ありません。重要なのは自立であり、自立するかどうかは選択できます。

繁栄への道のりにおいて、例えば、現状をより良い世界のための設計図を置き換えたりして、英雄になろうとしてはいけません。それは誰かの主権を押しつぶすことになってしまいます。あなたが誰かの設計図の下で生きたくないように、誰もあなたの設計図の下で生きたいとは思わないのです。

そうではなく、自分自身の気持ちを整理し、基本的なことを正しく身につけましょう。人生の仕組みを理解し、自分の目的を達成するために現状を賢く利用するのは、せいぜい、集団ではなく個人を助け、個人の主権を促進することです。それが、自分自身や愛する人たち、そしてコミュニティの繁栄を実現する唯一の方法です。現状にポジティブな変化をもたらすのは、主権を持つ個人の選択のみです。そうでなければ、全体主義者を別の全体主義者、すなわちあなたに置き換えているだけになってしまいます。

最後に、人が間違っって要求してくるものを与えた方が効率的な場合があります。たとえ自分が正しくても、そうしないことでより高い代償を払うことになるかもしれません。なぜなら、要求を叶えられないことによる落胆は、創造しようとするあなたの意志を押しつぶしてしまう可能性があるからです。裏切りは信頼している人からしか受けず、見知らぬ人は友人よりもあなたを信頼するでしょう。人生でなりたい自分を創造することで得られる幸福感や満足感の価値は、他者があなたに要求するものよりもはるかに大きいのです。

自分の人生を管理する方法

自分の人生でやろうと思っていること（または含めようと思っている人）の、自分の人生にとっての価値を試すことができます：

- 自分の主権を最大化するために使えるか？
- 自分の能力を高めるために使えるか？
- 人生でなりたい自分を作るために、自分のすべての能力を最適に使うことができるか？

上記の目的のために、知性、意志、協調性は、自分の人生を正しく管理するために持っていなければならない能力です。

リーダーシップとは、軍隊を指揮したり、会社を経営したりするためだけのものではありません。自分の人生を正しく切り開いていくためにも、他人に主権を奪取されて自分が望まない人間になってしまうのを防ぐためにも、リーダーシップ能力は必要なのです。「知性」と「意志」は、自分の意思でコントロールできること、すなわち自分の意思決定に関するものです。「協調性」とは、自分ではコントロールできないけれども、影響を与えることができるもの、すなわち他者の意思決定に関するものです。

「知性」とは、合理的な思考能力のことで、自分が望む結果をどのように決定し、それを最も効率的に生み出すために何をすべきかということです。知性に関連するスキルの例としては、好奇心（例えば、学ぶこと、経験すること）、論理的思考（例えば、分析すること、仮説を立てること、共感すること）、因果関係を見抜く力（例えば、解決策や計画を立てること）などが挙げられます。

生来の好奇心と探求心があれば、あなたの知性はすぐに磨かれるでしょう。しかし生半可な知識にとどまる

ことがないよう、真摯で体系的な探求を心がけましょう。義務的に勉強するのではなく、自分の興味のある分野を慎重に選びましょう。いつ、どの程度まで知るかを計画するのはです。学ぶ場を本や教室に限定してはいけません。

珍しい混合スキルのある人は、創造性を発揮するための材料を多く持っているので、少なくとも2つの異種混合の分野の専門性を高め、それを何とか結びつけられるようにしましょう。自分が楽しいと思うことを組み合わせさせて学ぶのです。例えば、会計に詳しい研究者、第二外国語を話せる機械工など、可能性は無敵大です。チェロ演奏、石鹸作り、アロマセラピー、ファッションジュエリー、チーズなどの趣味を組み合わせましょう。いいじゃないですか。何よりも、自分の関心が他の分野に向いたり、学校に戻りたくなったりしても、年齢に関係なく、自分は失敗したと思わないことです。80歳の人と20歳の人と一緒に勉強していたら、最高にラッキーなクラスメートですよ！

新しいことに挑戦している人を妬んで非難する人がいても、それに負けてはいけません。「彼女は工学を学び、有名企業で働いていたけれど、今は香水ショップの店長をしている。なんてもったいない。」のようなコメントは誰もが聞いたことがあります。彼女は香水ショップで働いてもエンジニアをやめたわけではありません。むしろ、エンジニアとしての専門性に加えて、香水や販売、顧客対応の専門性が加わることになります。

「意志」とは、自分が望む結果を生み出すために、行為主体感に基づいて行動する能力に関連しています。意志に関連するスキルの例としては、自制心（例えば、他人の主権を侵害しない、感情をコントロールする、耳を傾ける）、誠実さ、謙虚さ（例えば、法律や倫理、他者に従う、無知を認める）、勇気（例えば法律や倫理、他者に従わない、未知のこと、曖昧なこと、争いに向かって突き進む、自分を評価する）があります。

「協調性」とは、自分が望む結果を生み出すために他者を説得して協力してもらう能力と関係があります。関連するスキルの例としては、思いやりや感情的な知性（例えば、自分のメッセージの伝達によって影響を与え、説得すること）があります。

自分の人生を管理する能力を身につける際には、次のようなシンプルな信条が有効です。

- 愚痴を言わずに仕事をする。
- 自分の無知を認める。
- 基本的なことを正しく身につける。
- 絶対に嘘をつかない。

人生の意味

30歳という年齢では、人生の流れを変えるにはまだ十分な時間があると私たちは考えます。キャリア、結婚、ライフスタイルなどの進捗状況を、他の人たちと比較します。仕事でもプライベートでも野心的な計画を立て、それを実現するために努力します。

30代後半になると、ほとんどの計画が失敗に終わっていることがわかります。何が起こったにせよ、予期していなかった結果は非常にいいものになる場合があります。そして、いずれにせよ私たちは常に新しい計画を立てます。しかし独身者は、自分が取り残されていることに悩むかもしれません。自分は一生結婚できないのではないか、ましてや子供を持つことは不可能ではないかといった心配をします。さらに、満たされない夢、行き詰まった仕事、親からの結婚のプレッシャーなどが重なり、何か自分の人生を変えなければならないという焦りが強くなります。結婚している人や長く付き合っている人でも、配偶者との将来に不安を感じる場合があります。

40代、50代になった人は、死というものをよく知っています。すでに友人も何人か亡くなっています。誕生日はあっという間に過ぎ、体の衰えも感じます。「私はなぜここにいるのか」「いつまで生きるのか」「残りの人生で何をすべきなのか」という疑問が頭をよぎります。

時に美しく、しばしば苦しく、常に不確かで、絶え間なく疑問を抱き、自分の好みに変えようと奮闘するこの旅の意味は何でしょうか？

幸福がこの旅に不可欠であり、幸福が人生でなりたいたい自分を創造することから生まれるとしたら、どうやってなりたいたい自分を知り、そこに到達するためにすべきことを知ることができるでしょうか？

その答えは、自分の人生をどうやって管理するかを理解すると見いだせます。

「人生は短い」は危険な誤謬です。「人生は短い」と思い込んでいる人は、非常口を求めて奔走するかのごとく思い切った方法で人生を変えようとします。不倫をしたり、恋愛を終わらせたり、街を出て新しい生活を始めたり。善意の友人からのありがちな悪いアドバイスに信憑性を感じ、ようやく解放されたと思うのは爽快です。一時的な恋人は最悪の影響力を持っていて、彼らはお世辞を使って現実逃避をけしかけます。しかしほとんどの場合、「逃避者」の人生は悪化し、彼女や彼を本当に愛している人たちの人生を破壊してしまいます。一方、友人や恋人たちは痛手を負いません。自由な人々が幻想の牢獄から逃れようとすることで、多くの不必要な心の傷が生まれることは、非常に残念なことです。

「人生は短い」と自分に言い聞かせれば、確かに一生は短くなります。人生は本質的には短くも長くもありません。人生を正しく管理すれば、年齢に関係なく、なりたい自分を作ることができるほど人生は長くなります。セネカの言葉を借りれば、「人生は使い方を知れば長い」ということです。

アリストテレスは、「幸福とは、自分の能力がすべて開花されたときに得られる幸福な状態であり、喜びや満足としての幸福の一般的な概念ではなく、精神的にも肉体的にも困難な創造的な仕事である」と述べています。創作物とは、あなたの意志を外に示すものであり、言い換えると、あなたが誰であるかを示すものです。人間関係、技術、家族、音楽、交渉、子育て、冒険、精神性、食事など、あなたの心と体と手で作れるものなら何でも該当します。どんなものでもいいのです。あなたの創造物に対する人々の反応は、あなたの精神にフィードバックされ、あなたを高めます。人生の旅を続けていると、自分の創造性を高めるために、興味や知識、経験を増やしたくなるものです。

なりたい自分のビジョンは、このようにして自分の中で少しずつ育まれていきます。「今日からこれが私だ!」と宣言をしてもダメです。段階的なステップは、計画的な場合もあれば、そうでない場合もあります。これが得意な人は、そうでない人よりも満足しています。つまり、満足度とは、自分の人生における創造物をどれだけうまく管理できているかという尺度なのです。

創造性を開花させるためには、能力を高めることは必要ですが、それだけでは不十分です。また、それだけでは人生を管理することはできません。能力を超えて、知性を超えて、何かが必要なのです。

人は、誠実さと犠牲に根ざした愛の質をもって愛し合ってこそ、お互いに最高のものを引き出すことができます。オックスフォード大学のテリー・イーグルトン教授は、「愛とは、人の能力を開花させるための相互依存である」と述べています。他者への思いやりは、私たち自身が繁栄するための条件なのです。

したがって、この愛の質は、最高の創造性に到達するために不可欠なものなのです。これは私たちがなりたい自分を創造するための唯一の方法です。創造している間は、幸福という状態が自然に私たちの中に生まれます。そして、私たちはそのことに気づきます。真の創造のために必要な苦労や痛みがあるにもかかわらず、自分が創造していることに満足感を覚えるからです。

この旅をどのように進めていくかによって、自分の人生、そして旅に同行する人の人生に意味を持たせることができるのです。今からでも遅くはありません。人生の創造を管理して、幸福で満足のいく状態を目指しましょう。

人はあなたを失望させます。あなたの期待を裏切り、あなたを苛立たせるでしょう。もしかしたら、あなたはがっかりさせられ、時間を無駄にさせられ、あなたの夢を叶える手助けをしてもらえなかったと感じるかもしれません。

しかし、もし彼らがあなたを愛しているなら、そしてその愛が純粹に誠実さと犠牲から来るものであるなら、彼らに欠点があったとしても彼らを嘲笑したり、拒絶したりしてはいけません。彼らの愛に報いるのです。もしそれが難しいのであれば、それはあなた自身が努力すべきことが多いということです。愛は常に足りないものですが、それは私たちの選択によるものです。

確かに、誠実さと犠牲に基づく愛し方を理解するのは、新しい興味や知識、経験を増やすという知的な面よりも難しいことです。しかし、自分を愛してくれる人を見限るということは、自分自身を見限るということです。なぜなら、相手にどんな欠点があろうとも、人と愛し合うことでのみ、人生の意味を得ることができるのです。

もし、あなたがその人およびその人から受ける愛を失ったと思っても、恐れることはありません。その性質上、それらは永遠に取り戻すことができます。取り戻すかどうかは、あなたの意思にかかっています。

大宇宙は、その栄光と美しさのために、恐ろしく間抜けなものです。計画なく変化してしまいます。このすべてにおいて、そしておそらくそれ以上に、私が語る愛は、あらゆる自然の力の及ばない唯一の不変のものなのです。宇宙の目的は、あなたがそれとして決めたことです。そうでなければ、変化（愚かな変化）しか知らない宇宙では、愛は唯一の確かなものであり、あなたが自分で作った変化、つまり意味のある人生を送るための知的な変化で繁栄することを可能にします。

付録：応用例

どのくらいのお金があれば足りるのか？

人は存在を得るために存在を費やします。なりたい自分を創造するために、どれだけのお金²³が必要なのかを知りましょう。そうでないと、他者にとって十分な価値を生み出さないことで、部分的に自分の人生を誤って管理することになります。

優れたパイロットは、離陸してから目的地を決めて、飛行機にたまたま入っていた燃料でできる限り遠くまで飛ばうとはしません。しかし人は常々このようなことをしながら生きています。給料（＝飛行機にたまたま入っていた燃料）と、なりたい自分（＝目的地）を作るために必要な金額には、何の関係もありません。仕事、キャリア、職業はあなたの目的地ではありません。それらはあなたの飛行機であり、おそらくあなたの旅に必要な多くのもののうちの1つです。

問題を再定義しましょう。あなたのライフワークは自分自身を創造することですから、本末転倒になってはいけません。お金を稼ぐために何かを始める前に、なりたい自分の一日をイメージし、その結果を生み出せる自分を作るために必要なお金を見積もってみてください。そのお金はいつ必要ですか？それを手に入れるためにどんなリスクを負いますか？金額、時期、リスクがあなたの経済的目標を構成します。

一日をイメージする努力をすればするほど、見積もりはより正確で有益なものになります。自分がやりたいことを、誰のために、どこでやりたいですか？誰と一緒にやりたいですか？あなたの人生から切り離す必要のある人は誰ですか？自分の創造が終わったとき、それをどうやって知るのでしょうか？人は自分自身の創造をやめることがあるのでしょうか？毎日の習慣など、日常的な

²³ 文字どおり、あなたの人生における時間とエネルギーのことです。

ことに特に注意を払ってみましょう。毎日同じ場所、同じ時間に起きたいのか、それとも世界を放浪して常に変化するスケジュールで過ごしたいのか。このような質問に対する答えを、年齢とともにどのように変化させていきたいですか？

なりたい自分を創ることの緊急度によって、自分のペースが決まり、そのために耐えられるリスク（痛み）や、目的地に到達するために必要なスキル（知性、意志、協調性など）が決まります。自分を創るための資金調達は、目的地から遠く離れたところで何年もかけて行う必要があるかもしれません。成功するかどうかは、自分の人生を正しく管理し、旅の途中で他者のために価値を創造するための知性、意志、協調性をどれだけ身につけているかにかかっています。

冒険は自分の人生を創造するための生き方

起業家はなぜ会社を設立するのでしょうか？従業員になって質素な生活をし、お金を貯めて必要な資金を手にする方が道理にかなっているのではないのでしょうか？

起業家は、他者の管理下にある他の会社に資金を投資するよりも、自分の手でより多くのお金を稼げると信じています。その信念は、自分の能力によって正当化されるかもしれないし、思い上がりに根ざしたものかもしれません。いずれにせよ、この起業家の結論は正しいのです。従業員として働いては、欲しい時に欲しいだけのお金を、自分のリスク許容範囲内で生み出すことはできないでしょう。起業家が経済的目標を達成できる可能性は、戦略とその実行にかかっています。従業員や投資家のようにコントロールすることはできません。

従業員は、給料は物を買ったりお金を節約したりするための手段であると考えています。困難な状況下では、創造性の妨げではなく、生活費の不足について心配します。

対照的に、起業家は自分の創造的な野望を満たすために機会を作ります。自分の労働の産物から得たお金を使って、他者のためにさらに多くの機会と価値を創造し、その結果、自分のお金をさらに増やせるのです。起業家はお金が足りないと、自分の創造的なアウトプットが鈍るのではないかと腹を立てます。

起業家の人生は自らの冒険と絡み合っています。人間関係、経済状況、健康状態にも被害が出ます。起業家は這い上がっては落ちを繰り返し、精神的にも肉体的にも、そして経済的にも疲弊します。家族や友人は好むと好まざるとにかかわらず、冒険に巻き込まれます。彼らは、起業家を辞めて、より良識的と思われる従業員としての道を歩むよう、猛烈に説得しようとしします。

気にする必要はありません。

冒険は生き方の一つですが、それ自体が目的ではありません。人生、つまりなりたい自分を創るための生き方です。冒険という垣塙（るつぼ）は、自己欺瞞や不合理の層を取り除き、自分自身と向き合うことを余儀なくさせます。他者の中に自分を、自分の中に他者を見るようになることで、ある程度、人生の仕組みや今の自分を知ることができるのです。

日本人女性のための思索

なりたい自分をどうやって創るかは、やってみてからでないとわかりません。他の人がうまくいったことが、たとえあなたがすべてを正確に再現したとしても、あなたに同じ結果をもたらすことはありません。それが、あなたが存在するために必要な人生のあり方なのです。では、あなたは自分の人生をどうすればいいのでしょうか？その答えは、日本人女性から最も多く聞かれる3つの質問によってもたらされます。

ユキ、中年の母：

「幸せになるためにはどうすれば？」

ユキは、生活のために働かなければなりません。家賃、食費、家計費などで、夫の給料から税金を引いた残りの金額が消えていきます。共働きにもかかわらず、夫との生活は一向に改善されません。すでに40代になっているユキは、現在の経済状況で2人の子供を育てていくことは、費用もかさんでいく上げ潮の中で立ち泳ぎしているようなものだと感じています。

ユキの平日は、山のような事務作業に追われています。大阪の大手メーカーで、中年のOLたちと一緒に働いているのです。毎月25日には、会社から32万円がユキの銀行口座に入金され、宇宙からは30日分の寿命が引き落とされます。安定性が問題になることは決してなく、ユキは会社でこれまでの10年と同じように次の10年を過ごすでしょう。

ユキは1日に16時間働いています。そのうち半分は無給、つまり主婦の仕事です。家事、すりむいた膝の手当て、子供の犬の世話など、家庭内のあらゆることが対象となります。最も時間がかかるのは、子供たちに関することです。公立学校、塾、ピアノ、バレエ、剣道、水泳、合唱、サッカー、そして頻繁に起こるお医者さんへ

の通院と、子供たちのスケジュールをお弁当と同じようにぎっしりと詰め込んでいます。

ユキの夫は仕事に縛られていて、全くリスクを取りません。自分の成長やわずかな充実感を得られるような機会を口にするたびに、ユキは夫を叱咤します。成長にはリスクがつきものですが、ユキは我が家を快適にするための安定したキャッシュフローにはリスクを許しません。夫は、仕事で知的怠惰を味わうことよりもユキを恐れるあまり、家族には安定した給料と善意という2つのものしか与えないことを甘んじて受け入れています。家事をユキに丸投げするなど、日本の「サラリーマン」の役割をしっかりと果たしています。

ユキの夫婦関係は丁寧でプラトニックです。ロマンスはありません。疲労や気分が乗らないことを言い訳にしていたのは昔の話で、夫のことは家族としてしか愛していないと、ユキはあっけらかんと言っています。2人目の子供が生まれてからの5年間、ユキは親密な関係を拒絶してきました。自分は子供たちと一緒に寝て、夫には主寝室に一人で布団を敷いて寝させています。

ユキは自分の魅力が元に戻らないほど落ちていると思込んでいますが、それを肯定してくれる人を求めています。その望みのある知人の男性が熱心に叶えてくれています。ユキは自分では一線を越えていないと思っていますが、彼女は気持ちの上ですでに本格的に浮気しています。彼女のソーシャルメディアでの親密なメッセージは、その半分が夫を誹謗中傷するもので、もし夫に知られたら夫の心は永久に傷つくでしょう。そして、もしそうなったとしても、ユキは配偶者の信頼を打ち砕いたことではなく、自分のメッセージが見つかってしまったことだけを残念に思うのです。実際、彼女は自分のやっていることは理にかなっていて、ひいては正義だとさえ感じています。

ユキは、理想の母親や妻でなければならないというプレッシャーを常に感じています。彼女の知人や友人と呼ばれる人のグループは、完璧な母親や妻の架空ののだ

かな生活を描いた巧妙なソーシャルメディア投稿によって、24時間体制で突き合っています。例えば、ある女性は最近、子供を東京の有名な学費の高い私学に入学させることに成功しました。それを聞いたグループのメンバーは、激しい羨望の眼差しを向けました。ユキは、羨ましいというよりも負けず嫌いなどころがあります。しかも、自分の子供の成長を第一に考えていますが、年間300万円の学費を支払うことができないせいで後々苦勞するだろうと心配しています。それが悔しくて、彼女は子供や夫に怒りをぶつけてしまうのです。ユキは、そんなふうになってしまう自分が好きではありません。

ユキは子供、夫、家、友人など、欲しいものはすべて手に入れてきました。やるべきことをやるべき時にやるべき順序でやったのに、なぜ彼女は空虚感を感じているのでしょうか？なぜユキは不安なのですか？彼女は子供のいない自由に憧れながらも、子供を愛し、良い母親になりたいと思っています。彼女の人生はマンネリ化していて、その理由がはっきりしないのです。

迷いはあっても、ユキは自分の野望を知っています。家族と良好な関係を築くことは、彼女にとって不可欠なことです。いい生活のためのお金も欲しいし、夫には女性として扱ってもらいたいと望んでいます。ユキは自分の目標を達成するために、人生を変えられるだけの知識と自信があればよかったのと思っています。

ユキは自問します。「幸せになるためにはどうすれば？」

アカリ、未婚で出産適齢期：

「なりたい自分になるための自信を得るには？」

30代のアカリは、生まれたときから両親と東京で暮らしています。日本で最も有名な投資銀行から、そこで働く特権を与えられています。彼女はエンジニアとして教育を受けましたが、現在は男性投資銀行員たちの秘書とし

て働いています。友人や親戚からは「運がいい」と言われます。アカリは感謝の気持ちを持つよう期待されています。

銀行員は、両親、教師、教授から、誰よりも賢く、ゆえに誰よりも優れていると褒められて生きてきました。銀行員がそう信じていることは、傲慢さからくる悪質さがなければ、ほぼ許すことができます。銀行家が誠実なのは、お金を追求することに対してだけです。彼らの先人たちは、日本が第二次世界大戦中に行った、自国や他の国を破壊するような侵略行為に大々的に資金を提供し、それによって莫大な利益を得て、今日までその恩恵を増やしてきました。犠牲や思いやりといったルールは、手先や部下のためのものです。自分の会社の100年来の伝統を永続させるために、彼らは同じ志を持つ後継者を雇います。

銀行員たちは、アカリに命令したり、いじめたりするとき以外は、アカリの目を見て話すことはありません。手の届く距離に座っている人でも、アカリと直接話さず、メールでやりとりをします。アカリが口を開くのは1日1回、それも昼食後の歯磨きの時だけです。上司による愚弄は、時間外の飲み会にも及びます。飲み会は公式には任意ですが、実際には強制であり、淫らで酔っぱらいとタバコの煙が充満しています。参加しなければ、さらにいじめられます。カリギュラがそうであったように、銀行員たちは面白半分で、可能だから、そして自分が生きていることを思い出すために虐待を行うのです。

個人的には、アカリはある人を深く愛し身を捧げていて、相手も同じように感じています。同じような仕事上の環境で打ちのめされた彼は、主権を手にするには起業することが唯一の道であり、それによってアカリと自分自身の幸福と繁栄を得られると判断して、その環境を去りました。すべては2人のために、一生懸命、全速力でゴールを目指しています。アカリへの愛が、暗い時間を支えているのです。

長年にわたって多大な努力を重ね、普通の人には乗り越えられないような壁を乗り越えてきたにもかかわらず、彼はいまだ無一文です。目の前の壁には終わりが見えません。少なくともアカリの目には、成功は不可能に映っています。かつて彼女は彼のことを、優秀で刺激的で、ハンサムだと思っていました。しかし老いて肥満になった彼は、今では衰弱した負け犬のような印象を与えています。アカリは軽蔑の念を抱いています。

アカリは、自分の人生に行き詰まりを感じています。自分の家族を持ちたいと強く願っている彼女は、恋人が自分を救ってくれるのを何年もじっと待っていました。しかし彼は自分を愛していないのではないかと、自分を拒絶しているのではないかと、結婚したくないのではないかと、と考え始めています。どれも真実ではありません。一方、彼女の同僚たちは、彼女を不幸のどん底に引きずり込んでいます。銀行員たちは毎日、アカリの自信を奪い、それと共に生きる気力を奪っていきます。内気で明るい性格だったアカリは、今では皮肉屋で喧嘩っ早く、気分の波が激しく、世の中を敵視するようになりました。また残酷な一面も表れてきました。

アカリは自ら問題に対処することにしました。彼女は探求心が強く、自分を磨くことに熱心で、暇さえあれば新しいことに挑戦しています。そして趣味も仕事も同じあってほしいと望んでいます。恋人が冒険に失敗していても、起業家精神がアカリの心を捉えました。アカリは夜になると寝室に閉じこもります。そこは勉強して自分の能力を高めるための聖域です。自分のために使えるお金はほとんどありませんが、それでもアカリは何とかうまくやっています。一日の過ごし方や、なりたい自分の姿も見えています。しかし最初の一步を踏み出すのは難しいことです。

アカリは自問します。「なりたい自分になるための自信を得るにはどうしたらいいのだろうか？」

シオリ、独身で更年期：
「何のためにこんなことをしているのだろう？」

あなたの名前はシオリ、東京都在住の女性会社員、52歳、大学中退、結婚歴はありません。

平日の午前6時、あなたはだるそうに目を覚まし、疲れています。1分を惜しんで朝の準備や雑用を済ませる中、時計は刻々と通勤電車の発車時刻である8時に近づいていきます。電車に乗り込むと、自宅のある世田谷区から丸の内金融街の近くにある東京駅までの約40分間、他の通勤客との混雑に耐えます。駅に到着してドアが開くと、あなたは電車から人の波によってホーム上の通勤客の群れに押し込まれます。そして駅の出口に向かって流されていくのです。

オフィスのロビーにたどり着くころには、すでに疲れ果てていますが、あなたはセキュリティゲートを通過するために長蛇の列どれかに並び、さらにエレベーターの前で10分ほど並びます。あなたは再び押しつぶされた状態で、エレベーターが超高層ビルの各階に止まる間、階数表示に釘付けになります。

自分のフロアに着くと、味気ない蛍光灯が光る部屋の中に、たくさんのデスクに埋もれてあなたのデスクがあります。飛行機のエコノミークラスのような光景ですが、テレビ画面とトレイテーブルの代わりに、パソコンと机が与えられています。同僚の男性たちは「おはようございます」となるように言うと、あなたの視線を逃れ、それ以降、一日中何も話しかけてきません。

その後の10時間は、数回の休憩と昼食を除いて、メール、スプレッドシート、パワーポイントのスライドに耐えなければなりません。午後は別の雑務に追われます。会議は長引き、偉そうな課長の独り言に十数人がこぞって頷くのです。

すべての仕事を終えているので午後3時に退社してもいいのですが、その勇気はありません。誰一人そんなこ

とはしません。上司が気まぐれに退社するのを待っていると、必然的に午後7時を過ぎます。それからようやく同僚たちは人目を忍んでオフィスを出ます。夜遅くに、ようやくあなたは仕事を終えます。後ろから押し込まれるようにして再び満員電車で揺られて今度は帰路につきます。

家に帰れば、トイ・プードルの愛情に包まれて癒されます。家事を終えると、夜に辛うじて趣味の時間をいくらか確保することができます。就寝前の貴重な時間に、想像力や創造力を発揮することができるかもしれません。

化粧品の販売、ウェブサイトのデザイン、結婚式の企画、料理の講師など、自分の趣味をフルタイムの仕事として追求できる日が来ることを願いながら、あなたは夜の12時に眠りにつきます。あなたは解放されるその日が来るまで、金曜日の夜と週末を生きがいに暮らしています。

正當に稼いだ50万円のうち、毎月の手取りは3万4000円。差額は、税金、年金、医療保険料などで強制的に差し引かれてしまいます。さらに、好きにお金を使うたびに10%の消費税を取られます。あなたは、これらを自然なことだと感じたいと思っています。そうすれば、いわゆる社会的利益から得る悪い取引を認識しないように、ぎりぎり自分を欺けます。長年の努力にもかかわらず、あなたの純資産はわずかしかなかった。

両親はまだあなたに結婚するよう迫ってきます。「あなたのことが心配なのよ」と言ってきますが、その心配を正当化する根拠を示すことはできません（しなければならぬとも思っています）。お母さんの知人に孫がいることは、あなたのお母さんに、自分に孫がいないことをしつこく思い出させてしまいます。お母さんの嫉妬、恨み、絶望があなたに降り注がれます。それは、集団から取り残されることへのイデオロギー的な恐怖と、種を持続させようとする彼女の自然なプログラミングが混ざり合ったものです。

男性に関しては、数年に渡る交際を何度か経験しています。そうした関係が終わるたびに期待は裏切られ、自分にふさわしい男性は常に手の届かない存在だと感じます。同僚からはお見合い食事会に誘われ、会社の飲み会では何度か浮気もしました。そのうちの一人は既婚者で、彼はあなたの恋人になりました。あなたは、彼がいつも家族と過ごす孤独な日曜日に気づかないふりをして、彼との将来を確信しようとし、19歳の頃から男性関係においてそうであったように、あなたは相手に性的接触を認めてしまったことで交渉上の優位性を失ってしまったので、あなたが信じていることはいずれにしろ現実味がありません。今回、あなたは3回目のデートの夕食後、パレスホテルで自分のパワーをふいにしています。仲間に勝つためにその夜の高価なフレンチディナーの写真はInstagramに投稿しておきました。あなたの報酬：35の「いいね！」。一方、彼は欲しいものを手に入れました。そして、あなたは彼にもっと多くを与え続けるのです。

一番欲しいものといえば子供ですが、長年の望みも今となっては不可能な夢です。幼稚園の前でおしゃべりしているお母さんグループ、電車の中で周りには制服を着た小学生、甥っ子の大学の入学式など、その夢を思い起こすきっかけはたくさんあります。しかし、その不可能な出来事は、別の不可能なことに徐々に取って代わられています。老後に一人にならないということです。あなたは、自分の物語が周りの同じようなケースとは違う結末を迎えることを望んでいます。しかし、そうなるはずはありませんし、あなたもそのことをわかっています。東京の暮らしはあまりにも均質なので、違った結末を許さないのです。あなたは高齢になって一人で死ぬでしょう。

人生が短いという恐怖は、あなたの重荷になっています。より充実した人生を送ろうと必死になっているいろいろなことに挑戦しても、結果は思わしくありません。夢には永久に手が届かなさそうです。

あなたは自問します。「何のためにこんなことをしているのだろうか？」

思索

なぜあなたはここにいるのか？

あなたは、人類の利益のため、生存して繁殖するために存在しています。男性もそうですが、会社を経営したり、手術をしたり、夕食を作ったりするために存在しているわけではありません。

そうすることで、あなたは自分の中にある非常に古いプログラムを実行しているのであり、私たちの種の存続以上の意味はありません。プログラムはあなたが実行するために存在し、プログラムが存在するからあなたが存在するのです。

このループを止める唯一の方法は、あなたの人生を終わらせることです。その場合でも、もしあなたに子供がいれば、プログラムはあなたの子供の中で実行され続けます。

プログラムから思考は生まれ、思考から意志が生まれます。意志とは、あなたの人生の中である時間、あなたのエネルギーをある目的に向けるためのあなたの機関です。プログラムはあなたの中でほとんど自律的に実行されますが、あなたはプログラムの一部を制御したり、無効にしたりすることもできます。²⁴ あなたの意志は、生存と繁殖のプログラムを超えて、あなたの人生の意味の源であり、宇宙の目的はあなたがそれと決めたことです。あなたは意志によって、社長にも医者にも主婦にもなれるのです。

²⁴ プログラム自体を変更することもできるかもしれません。

このプログラムは、あなたの体のあらゆる細胞、組織、器官、器官、系統、そしてあなたの体と他者の体の間で、バックグラウンドで静かに、そして容赦なく実行されています。非感覚的で非意識的なプログラムが、感覚的、意識的な生物であるあなたを駆り立てているのです。あなたの騒がしい意識は、あなたの決断に気を取られているので、これらすべてのこと、特にプログラムの結果に対するあなたの意識をかき消してしまいます。プログラムは、政治や宗教を含む、あなたのすべての信念に耳を貸しません。あなたは自分の人生でうまくいかなないことがあると、自分の意志が望むこととプログラムに促されることを調和させられないことよりも、他人のせいにする傾向が強くなります。そして、この盲点が、あなたのすべての問題とチャンスの源なのです。

プログラムは、あなたが地球上の最初の生命体から進化するまでの45億年の間に書き込まれたものです。実際には、人間の数と同じくらい多くのプログラムが存在しており、プログラムは私たち一人ひとりの中で、また一人ひとりの間で、容赦なく書き換えられながら適応し続けています。しかし書かれていることは、要するに書かれているのです。すべてのプログラムに同じ中心テーマがあります。プログラムが確実にあなたの命を奪おうと容赦なく前進するのと同じように（ほとんどの人は80年ほどの寿命の間にゆっくりと死を迎えます）、プログラムは私たちの種の永続を最適化します。その際、プログラムはあなたの意見、希望、夢を含め、他のことを一切気にしません。宇宙はあなたの個人的な充足感には無頓着であり、それに関していえばどんな生物の充足感にも無頓着なので、充足感を得たいのであれば自分でそれを作り出すしかないのです。

しかし、どうすればいいのでしょうか？

幸福な状態としての幸せ

幸せとは、自分のすべての能力が創造性を発揮して開花したときに得られる幸福な状態です。

あなたの創造的な製品は、あなたの意志の外的サインであり、言い換えれば、あなたが誰であるかということです。人間関係、技術、家族、音楽、交渉、子育て、冒険、精神性、食事など、あなたの心と体と手で作れるものなら何でもいいのです。どんなものでもいいのです。あなたの創造物に対する人々の反応は、あなたの精神にフィードバックされ、あなたを高めます。人生の旅を続けていると、自分の創造性を高めるために、さらに多くの興味や知識、経験を増やしたくなるものです。

なりたい自分のビジョンは、このようにして自分の中で徐々に形成されていきます。「今日からこれが私です！」と宣言して作られるものではありません。その段階的なステップは、計画されている場合もあれば、そうでない場合もあります。計画が得意な人は、そうでない人よりも満足度が高いです。つまり、満足度とは、自分の人生における創造物をどれだけうまく管理できているかという尺度なのです。

幸福な状態としての幸せとは、人間の能力が創造的に最大限に発揮されたときに得られるもので、精神的にも肉体的にも骨の折れる作業です。このとき、私たちは満足感を得ることができます。その満足感とは、自分の創造的な野望に対する期待と関係があります。創造する間は、自分の醜さも含めて自分自身と向き合うことを余儀なくされるので、苦しいこともあるかもしれません。また、なりたい自分を作るための戦いにおいては、トレードオフを行うこともあります。あなたの物語は、あなたが旅の途中で決めたトレードオフから生まれるもので、それは他の人とは異なります。

しかし苦勞しながら、ひいては苦しみながら、人はどうやって幸せになれるのでしょうか？

幸せとは幸福な状態であり、従来の幸せの定義である喜びや満足感と混同してはいけません。このような幸せは、創造的な作業の完成品からしか得られません。言い換えれば、何かを成し遂げなければ、喜びや満足感を得ることはできません。一般的な幸せの定義を鵜呑みにするのは愚かなことです。幸せなことを考えたり、幸せな人と一緒にいたりしても幸せにはなれません。そのような感情の基礎を築くには、自分で何かを作らなければなりません。

なりたい自分の夢を追い求めるために必要なのは、意志のみです。そしてもしあなたがこの文章を読んでいいるなら、あなたには意志があります。必要なものはすべて揃っているのです、なりたい自分になるための最初の一步を踏み出すことを決めて、旅を始めましょう。たとえそれがどんな人なのかわからなくてもです。最初からは知らないはずで、それこそが旅の目的なのです。あなたは粘土であり、あなたの意志は陶芸家です。幸せのような特別なものは、それより劣ったものからは成形できません。

プログラムの話に戻りますが、自分のなりたい姿は、あるときはプログラムと合致し、あるときは衝突します。人間として、女性としての自分を理解していなければ、幸福な状態を得ることはもちろん、それを維持することもできません。この理解不足があなたの盲点なのです。プログラムに反論することは、転んで怪我をしたせいで重力の力を不正だと非難するのと同じことです。自分が何を望んでいるのか、プログラムが自分に何をさせようとしているのかを理解しなければ、転倒を繰り返すかもしれません。

プログラムの奴隷になる必要はないし、少なくとも絶対的な奴隷になる必要はありません。プログラムは、毎秒、無数の生物に、無数の他の生物を食べよう駆り立てますが、すべての生物にはいくらかの知能があります。思いやりや愛を表現するものも多いです。それは公平なのでしょうか？感覚や意識を持たず、それゆえ正義

を考へる能力もないプログラムにとって、公平さなど無関係です。ベジタリアンが存在するという事実がそれを証明しています。しかし、感覚と意識のある生物は、動物を食べないことを選択することによって、プログラムを無効化できることも示しています。とはいえ、無効化は程度の問題でしかあり得ません。結局のところ、ベジタリアンであっても、他の生物を食べなければ生きていけないのです。

プログラムに対する自分の影響力の限界を感じると、虚無感に襲われるかもしれません。しかし絶望しないでください。生きるためにはプログラムが必要です。私たちはシマリスもまだやっていない方法で、プログラム（あるいは少なくともその一部）から脱却しました。生存と繁殖のためのプログラムは避けて通れないものですが、自分の人生に意味を持たせるために邪魔になる部分は無効化することができます。

あなたの盲点

あなたの体の中には、無感覚で無意識のプログラムがあり、あなたが生存と繁殖に反するような決断をすると、それに抵抗します。これが本当だと思わない人は、自分で試してみてください。自分の意志と自分の中のプログラムとの戦いにおいて、生存のための本能に反して、空腹や喉の渇きにどれだけ耐えられるのでしょうか？

生殖も同じです。あなたが出産適齢期になると、プログラムはあなたに繁殖するよう駆り立てます。もちろん、子供を産まないという選択肢もあります。しかしプログラムの働きかけを無効にできると錯覚してはいけません。プログラムは種を存続させるために書かれているのであって、あなたの人生を充実させるためではないのです。あなたの体の30兆個の細胞は、あなたが繁殖できなくなるまであなたを監視し、その後、細胞もあなたもやがて死にます。子供を産んだかどうかに関わらず、出

産適齢期を過ぎると、プログラムはあなたとの関係を終えます。あなたの意志は、その時点での最も論理的な目的、つまり老後に一人になりたくないという目的を自由に追求することができるようになります。

あなたの盲点に起因する最大の悩みの種は、あなたの正義感、あるいは男性の目から見れば正義感の欠如によってもたらされます。プログラムには正義はなく、あなたではなく種の利益のために実行されます。

例はたくさんあります。出産適齢期の終わりに近づいている子供のいない女性は、ある男性との長期にわたる関係がうまくいっていたとしても、別の男性との方が生殖能力を高められると感じた場合、その関係を断ち切ることがあります。最初の男性に対する付随的な恨みは、それが現実に基づいているかどうかにかかわらず、彼女の心の中でこの移行が決定的なものにします。彼女は何年もかけて築いてきた信頼を捨てて、新しい男性との関係を推し進めます。これらはすべて、まだ（または決して）存在しない赤ちゃんを授かる可能性のために行われます。男性はこれを不当で理不尽なことだと思い、男性側のプログラムの半分によって引き起こされた強迫観念による混乱に寄与したことは無視します。フラれた男性は永久にトラウマになるかもしれませんが、女性は自分が完全に正当化されていると考え、わずかな後悔も感じません。もしプログラムに感覚と意識があれば、彼女に同意するでしょう。

同様に、結婚式で花嫁がこれ見よがしに派手な姿を披露するのは、お祝いというよりも、女性客に自分の生殖競争力と縄張りを宣言するためかもしれません。女性の前では、母親が幼い我が子にわざと過剰な愛情表現をすることがありますが、これも同様の理由からです。子供のいない、表向きは解放された女性がどちらかの状況に痛みを感じるとしたら、彼女は自分の政治的信念に背いているのではなく、文字通り「プログラムに参加し」とプログラムに煽られているのです。

このプログラムは、実用的で冷酷なまでの合理性を持っています。しかし、それは誰にとって合理的なのでしょう？

プログラムに基づいた行動は、種の永続のためには合理的ですが、個人の充実感のためには非合理的であり、それに反することもあります。プログラムは、種の長期的な利益のために、今この瞬間の客観的な判断を与えてくれるのであって、あなたを含む個人の人生の利益を目的とした短期的な正義のためではありません。「悪魔が私にそうさせたのか？」 そうではありません。あなたの盲点は、他者が自分に対して犯した罪や、自分が他者に行っているかもしれない極悪なことに対する憤りの中に埋もれています。

肉食の世界にいるベジタリアンのように、男性はそのような行動は不公平だと言うでしょう。誰もが生まれながらにして持っているプログラムに沿って行動することは恥ずかしいことではありませんが、それを理解していないことによる不幸はあります。プログラムの存在を認めることで、女性としての価値が下がるわけではありません。プログラムは男性の中でも実行されており、より正確には、すべての男性と女性の間で実行されています。そのプログラムは、男女共通の行動や、それぞれの性に特有の行動を引き起こし、男女が補完し合って生存・繁殖できるようになっています。

このプログラムはあなたをホモサピエンスにしますが、人間性を与えるものではありません。プログラムの結果は、あなたの人生を悲惨なものにする可能性があります。あなたには、間抜けな自動プログラムが盲目的に実行するものとは異なり、自分自身で宇宙の目的を決定する力があります。しかし、これは新しいことではありません。人間は意志を持ったときからずっと、そうしてきました。個人の充実感や、プログラムからは得られません。個人として、また種として存在し続けるために必要なことをプログラムに実行させながら、いかにプログ

ラムを超越するかによって得られるのです。自分の人生の盲点に気づかなければなりません。

このプログラムは、あなたが子孫を残し、いつか子供も自分の番が来たときに同じことができるように子供を育てるために、あなたの中に本能的な愛を生み出します。プログラムは、あなたを使用した後はあなたのことを忘れ、死んで朽ちるのを待つだけです。しかし、あなたには意識があり、感覚があります。あなたは本能的な愛を超えて、誠実さや犠牲心、思いやりをもって愛することを選べますが、それらはすべてプログラムのアルゴリズムのはるか外側にあります。誰かを愛するということは、死への道を歩んでいる人を保護することであり、その人もまたあなたに同じことをしています。

幸福という状態の幸せを求めるのであれば、ここに到達しましょう。自分の意志とプログラムの間にある盲点が、他者への思いやりや公正な扱いを台無しにして、自分を引きずり下ろすことを許してはいけません。

愛と思いやり

あなたが創造力を開花させるためには、誠実さと犠牲心に根ざした愛、そして他者への思いやりが不可欠です。このように、幸せと呼ばれる幸福な状態は、人生においてなりたい自分を創造することで、自分の中で育まれていくのです。

愛と思いやりを提供することを恐れてはいけません。誰を助けるかについては肥えた目で選びましょう。すべての人は物理的な法則に基づいて経済的な25利益を追求しているので、返礼についてあなたの期待に応えることができなくても恨んではいけません。アメリカでは訴訟がビジネスのコストであるように、報われない愛や思いやりは、あなたの幸福を創造するためのコストなの

²⁵ 人生の時間とエネルギーを意味します。

です。また、いわゆる友人があなたを見捨てるようなことがあれば、あなたの正直さを理由に、そうさせましょう。

人生からソーシャルメディアを排除しましょう

ソーシャルメディアほど、人の創造性の発達や、それゆえの幸福な状態を損なわせるものはありません。ソーシャルメディアは、他人の利益のためにあなたの集中力を奪い、あなたの時間を消費し、あなたの人格を歪めてしまいます。このエッセイを読み始めてから、あなたは何度携帯電話をチェックしましたか？あなたは、くだらないおしゃべりや、同じ罠にかかっている他のナルシストたちと競争するために架空の人物を作り上げることに何年も浪費しているのです。これらはすべて、人とつながり、価値ある情報を共有しているという口実で行っていることです。

幸いなことに、ただちに無効化するのは簡単です。今すぐアプリを削除して、もう見ないでください。自分の中に勇気を見つけて、あなたの人生からソーシャルメディアを排除しましょう。それでも朝になったら太陽は昇ります。

自立を選択しましょう

あなたは自分を愛していますか？自分を嫌っていますか？自分を尊敬していますか？自分を誇りに思っていますか、それとも恥ずかしく思っていますか？

自立した人は、石が自らのことを考えるごとく、自分自身のことを考えています。自立した人は本質的に自分自身、つまり自分の決断に依存しており、幸せと呼ばれる幸福の状態を達成するために必要なことは何でもします。もしあなたが自分のことを全く考えていないとし

たら、あなたはおそらく自立しています。自立するかどうかは選択です。

自信はただの気まぐれ

あなたはなりたい自分を創造する自信に欠けていると感じているかもしれません。他者にどう思われるか心配ですか？やりたいことがあっても、どうすればいいのかわからないですか？

人の意見は捨てがたいものですが、2,000年前にエピクテトスが提示した解決策は、今も変わらず受け継がれています。

泣く、嘆くとは何ですか？意見です。不幸、喧嘩、不満とは何ですか？これらはすべて意見です。自分の選択によらないものは善でも悪でもあるという妄想に基づいた意見ですが、それはありえません。これらの意見を否定し、善悪を選択の力だけに求めることで、私たちは自信を持って、人生のあらゆる状況において心の平安を得ることができるのです。

やり方がわからないことがあれば、学ばばいいのです。必要な情報をすべて持っている人はいませんから、足りない部分を補うために臆測を立て、できる限りいい計画を立て、なりたい自分になるための作業に取りかかりましょう。臆測や計画は、やりながら改善していけばいいのです。確かに失敗すればコストがかかりますが、すぐにより適切な判断ができるようになり、代償の高いミスも少なくなります。失敗しても（何度も失敗するでしょうが）、立ち直り、人生は続いていきます。

人が自信の欠如と呼ぶものは、知的怠慢です。「時期を待っている」とか「準備のための時間が必要だ」というのは言い訳です。恐怖に震えたり、障壁を指摘したり、不平を言ったりする方が、実行するよりも簡単なのです。「やる」ということは、思考力、集中力、そして粘り強さを必要としますが、これらはどれも重労働で

す。たゆまぬ努力をしている人でも、知的怠慢だったりします。一方、無能な人が非常に自信を持っていたりします。

自信は気まぐれではありません。重要なのは自立していることです。

死は最終的なもの

自分や愛する人のために成し遂げられることは、人生に残された貴重な秒数によってのみ実現可能です。死は最終的なものであるという考え方を採用することで、今日の自分に勤勉さを強いることができます。今が人生の最後の瞬間かもしれないということを知っているからこそ、人生の一秒一秒から価値を搾り出すことができます。

最も無力な人は、死後に二度目のチャンスがあると考えたり、超自然的な存在が常に見守ってくれていてトラブルに巻き込まれたときに助けてもらえると考えたりする人です。自分の死は最終的なものであるかのように、人生を生きましよう。天国はありません。そういう意味では地獄もありません。輪廻転生もありません。二度目のチャンスもありません。言い換えれば、銀行に予備の人生が預けてあるかのように、ぐずぐずしてはいけません。

死後の人生を願うのは悪いことではありませんが、希望と真実である可能性が高いことの違いをはっきりさせましよう。自分の幸せは自分の手の中にあるという現実を直視する勇気を持ちましよう。そうすれば、あなたの生きる力や創造力が高まり、人間性も向上します。

物事が自分に有利になったり不利になったりするとき、その背後には目的や壮大な計画はなく、神や超自然的な力からの報酬や罰もありません。あなたは、自立した主権者として下した決断の結果を見ているだけなので、自分の運命が自分の手に委ねられていることを知る

ことほど解放的なことはく、ゆえにこれ以上に爽快なことはありません。

文化的信者には要注意

あなたの主権、目的、約束など、あなたの幸福に欠かせないいくつかのことだけ真剣に考えましょう。あなたの文化はその一つではありません。そしてあなたの文化の名の下に主権を奪おうとして権威ある行動を取る文化的信者から自分の主権を守るよう、十分注意してください。

すべての文化は無意味な信念に溢れています。「私たちの文化は古くからある」とか「これが私たちのやり方だ」というような権威に基づく議論を使って、あなたに同調するよう圧力をかける信者には気を付けましょう。壊れた人ほど、自分の文化に熱狂的になります。これはイデオログの特徴の一つです。しかし真実を知りながら、それを利用してあなたを操る詐欺師も見過ごしてはいけません。

文化的な信者は、自分の主権をいとも簡単に放棄し、自分が高潔であることを確認するために他の人を引きずり降ろそうとします。例えば、女性に、ある習慣に従って結婚するようにひたすらプレッシャーをかけ、子供を産むようにおだてる両親や友人は、女性のためではなく、自分のためにそうしているのです。

文化のいかなる側面も、論理的な批判から逃れることはできません。少なくとも自分の中では静かに、すべてのものや人、特に長い間真実だと信じてきた文化的な信念は疑ってみましょう。

変化を受け入れましょう

変化は常に勝ります。

人は変化の波に乗ることもできれば、溺れてしまうこともあります。自分のやり方に固執する人は、誤った安定感で自分をごまかしているのです。変化がその妄想を打ち砕くとき、彼らは最悪の事態に陥ります。不確実性に慣れることで、彼らの愚かさを避けてください。変化を利用して、目標に向かって自分を飛躍させましょう。

10年に1度くらいの頻度で、いわゆる災難が世界を襲います。コロナウィルス。リーマンショック。ドットコム・バブルの崩壊。その10年前には日本の資産価格バブルの崩壊。いろいろあります。このような危機に陥ると、人々は変化に対応できずに避難所に逃げ込みます。体制は不安定になり、潮が引くように後退していきます。変化に強い適応力のある人は、体制の高潮が再び押し寄せてそこから10年間海底を覆ってしまう前に、ありふれた状況でチャンスを見つけ出すのです。

ほとんどの変化は、それほど劇的ではありません。何年もかけて蓄積されたその変化の重さが人を押しつぶすまでは、背景でかすかにゆっくりと、無視してもいい程度で起こっています。叶わぬ夢、壊れた人間関係、中年期の失業、不健康などが、この種の変化です。

ラインホルド・ニーバーの「静寂の祈り」の最初の数行にはこのように書かれています。

主よ、
変えられないものを受け入れる心の静けさと
変えられるものを変える勇気と
その両者を見分ける英知を我に与え給え。

穏やかさや勇気、知恵を神に求めるのではなく、この祈りを自分自身への誓いとすれば、変化に対応するた

めに自分自身を頼るという、生物として当たり前のことをするだけで、多くのことを成し遂げられるでしょう。

他者を変えようとしな

他者のありのままの姿を認めて、そのようにいさせてあげましょう。彼らを好きになる必要はありません。あなたが望むのであれば、彼らがあなたに従うようになだめたり、説得したり、おだてたり、議論したり、訴えたり、（主権を奪うことを除いて）必要なことは何でもしましょう。しかし、それは誰かを変えようとするとは違います。

人が変わるということは、その人自身が旅をすることであり、あなたがその人に望むこととは何の関係もありません。自分が人を変えるのは難しいということを認識した上で、自立心と創造力を養うことで、人を変える代わりに自分の行いを改めることに集中しましょう。

一緒にいたい人

もしあなたが、金持ちや権力者、有名人など、いわゆるエリートと付き合いたいと思っているなら、なぜ代わりに養豚業者と過ごさないのか、自分に問いかけてみてください。政治家や有名人、業界のトップはあなたを助けることはできません。成功が浸透することはないのです。

職人、労働者、博識者、いわゆる無学な人など、様々な人の中から賢くてクリエイティブな人を探しましょう。肩書きや名声のある人ではなく、あなたが興味を持てることをしている人が、あなたの旅には重要です。流行を追いかけて社会的になるよりは、物や社会的地位ではなく人柄や人のために価値を創造することによってあなたが尊敬する生き方をしている人を探しましょう。

自分のためにチャンスを作る方法

創造性は予定通りに発揮されるものではありません。目が覚めたときに、「今日、私は輝くだろう！」とはならないのです。自分でチャンスを作るためには、探究や発見を求める探検家のようなマインドでいましょう。

好奇心はすべての探求の火付け役であり、私たちの人生を単なる生存と繁殖以上の意味を持つ進路へと向かわせます。好奇心は、自分の才能（意志、知性、協調性など）のほとんど、あるいはすべてを使って答えを見つけなければならぬ創造的な試みである「探求」を行うように促します。探求における苦労は辛いものですが、幸せと呼ばれる幸福な状態が自分の中に湧き上がってくるので、探求を続けるよう駆り立てられていると感じるでしょう。そして、答えを見つけたとき、いや、答えを生み出したとき、それは発見の瞬間であり、爽快感とまではいかなくても満足感を得られます。自分のために価値を創造したことになるのです。そして、あなたは他者にも同じことができます。どうやらこれが、人間が他者のために価値を生み出す唯一の方法のようです。

好奇心がないとどうなるのでしょうか？ 退屈で無気力になり、つまらない人生を歩み、人や自分のために価値を生み出すのではなく、人から価値を搾り取るためだけに生きることになります。

例えば、ほとんどの学生は、自然な好奇心のかけらもなく大学に入学します。高校卒業後に何をすべきかというプロセスに盲目的に従ったか、親に強制されたか、その他の無関心な理由で大学に進学するのです。想像力が欠如している彼らは、人生に夢を持っていないし、子供の頃から一度も夢を持ったことがないと言います。彼らの心には、探究の火が灯ったことがないのです。好奇心がなければ探究は生まれません。教授や大学の管理者に促されて、何年ものんびりと授業を受けながら、人生で何をすべきかという答えが魔法のように飛び出てくる

と信じているのです。この愚かな行為から利益を得るのは、それで私腹を肥やしている学者たちだけです。

好奇心、疑問、探求、発見のサイクルから生まれる感情を大学生になるまでに身につけていなければ、一生身につけられそうもありません。ほとんどの人は、人生のお粗末な選択によって探求や発見がつぶされてしまったとしても、少なくともそうした感情にうすうす気づいているはずです。

だからこそ、自分の中でそれらの感情を呼び覚まし、育てていきましょう。自分が興味を持った分野について、理論的研究だけでなく、実際にその分野で働くという行動により、深く入り込むことです。自分で自分を囲い込んだり、囲い込まれたりしてはいけません。人から何と中傷されようと、全く無関係の分野にも果敢に挑戦してください。なぜならば、最高のチャンスは一見異なるものから生まれるからです。あなたは、自分のチャンスを作るための種を蒔いているのです。最初は遅々として進まないかもしれませんが、年齢を重ねるごとに創造性が高まり、想像以上に多くのチャンスを手にすることができましょう。

生涯学習は、探検家のマインドを養います。正式な教育は重要ですが、知識は不可欠です。一流の大学に通っても、あまりメリットがないことが多いです。知識はどこでも無料で手に入ります。なりたい自分を作るための旅を進める上で必要な知識やアドバイスの源は、慎重に選びましょう。

どうしても大学に行きたいのであれば、知名度の低い控えめな学校に狙いを定めましょう。学びの質は、一流大学が提供しているものよりも優れていることが多いです。教科書を超えて、どうやって推論するかを教えてくださいかどうかで、教員を評価してください。彼らは、ほとんどの質問に対する答えが本にはないことを知っていますが、自分で答えを見つける手助けをしてくれます。また、プロセスやルールには人生のほとんどの状況が含まれないことも知っています。

世界があなたの人生の家庭教師になってくれます。外国語が使われる状況でも怖がることはありません。何らかの方法でコミュニケーションを取ることができません。貪欲に読みましょう。記事を書きましょう。スピーチをしましょう。ボランティアに参加しましょう。クラブに参加しましょう。会議に出席しましょう。コンテストに出場しましょう。

旅行の際には、できるだけ多くの観光スポットを訪れるのではなく、その土地の文化に関わる短期講座やアクティビティに参加するようにしましょう。スポーツや何らかのエクササイズは、常にあなたのポートフォリオに入れておくべきです。嫌いなことや慣れないことに挑戦しましょう。それは好きになるよう自分を説得するためではなく、より創造的なつながりを得るためです。率直でいましょう。何よりも大切なのは、多様な経験の中で生きることであり、そうすれば自分のためにチャンスを作ることができます。

ただ頑張るだけではいけません

「一生懸命働くこと」と「価値のある仕事をする事」を混同してはいけません。自分の汗と誰かにとっての自分の価値との間に関連性が見出せない限り、自分の幸福を損なうこととなります。

仮に、あなたが官僚組織に深く埋もれていて、市場の声が聞こえないとします。その場合、自分の創造性を開花させるための能力向上の機会を失っていることとなります。そのような状態で頑張っても、いわゆる幸せという幸福な状態を手にすることはできません。

雇用主のブランドの名声など気にしてはいけません。従業員にパターンリズムを感じさせるような企業は避けましょう。年功序列ではなく、従業員が会社の生産性や利益を上げることができるようなシステムを採用し

ている会社を探しましょう。価値のある仕事を一生懸命するのです。

ブローケンイングリッシュでも大丈夫

ブローケンでもいいので英語を使いましょう。

日本語では情報源が限られ、入手できる意見やアイデアの数も限られてしまいます。英語も使って、海外の斬新なアイデアを見つけましょう。そのアイデアを活かして、日本での繁栄を促進したり、日本でのアイデアを海外での新たなチャンスにつなげたりできるかもしれません。多様な考えはあなたの創造性にとって不可欠であり、英語を勉強する理由としては、言葉そのものを習得するためよりも魅力的です。自分の視野を広げてくれる人と話ができるくらいの英語力を身につけましょう。

学ぶことは年齢に関係なく必要なことであり、英語は新しいことを理解するための視野を広げてくれます。常に学び続けることです。話題が奇抜であっても難解であっても、自分が好きな話題で、学ぶことにより満足感を得られるのであれば、それで構いません。

起業家精神を持つこと

日本のサラリーマンは、会社プロセスの安定の中に身を置いています。人が取り除こうとすると犬の皮膚の中へさらに深く入り込んでいくダニのように、サラリーマンは変化に直面すると、より頑固になります。宿主がマダニを振り払うか、または死ねば、ダニは死にます。会社とそこで働くサラリーマンも同様です。会社の組織変更や失業などの困難は、サラリーマンを動揺させる可能性があります。

しかし起業家は、生活のためのソリューションを設計し、実行します。彼らは、永遠に変化し続ける市場に身を置いているため、革新と変化で成長します。彼らの

適応力は常に向上しています。時間が経つに連れて、彼らは市場の変動に強くなり、落胆にも現実的に対処できるようになります。そうした能力が豊かさを実現するためには欠かせません。

起業家精神があれば、失業期間などのビジネスの予測不可能性を乗り越える知恵と体力を身につけることができます。安定した給料に頼るのではなく、予期せぬ市場の変化によって仕事を奪われる前に、自立した生活を送ることが大切です。

日本の女性の間では、自分の趣味（例えばアロマセラピー、ペット用品、化粧品など）を生かしたベンチャー事業で、本業に匹敵する収入を得られるようになるまで副業を行うことがトレンドになっています。そうなった時点で、そのベンチャーをフルタイムで追求します。ほとんどの場合、ライフスタイル・ベンチャーです。

起業家の最高の資質を自分の人生で具現化するために、会社を作る必要はありません。起業家的なマインドがあれば、たとえ誰かの会社で働くことになったとしても、特に会社の経済的利益とあなたのソリューションが結びつくようになると、自分を際立たせることができます。しかし起業家的なマインドを持つ人やその会社を探すことで、時間を節約しましょう。あなたの最高の時期を、巨大で時代遅れの会社の中で停滞することに満足している頑固者を変えようとしたり、我慢したりすることに費やさないでください。

責任を持ちましょう

日本では、ルールを守ることは、すべての罪から免除されることになります。それがどんなにひどい結果になっても、家族や同僚、地域社会、ひいては国に対して、自分の罪を償う完璧な贖罪になるのです。

ルールに従っている限り、人は罪に問われません。もしも、ルールを破って被害を防いだり、助けを提供したりして、より正しい道を歩んだ場合、そのような人は非難されます。「今回は失敗しなくてよかったが、君はルールに従わなかった」と。その人の名前には汚点がつくのです。

ルールに従うことは、人間を臆病者に貶める邪悪なイデオロギーです。人間はルールに従うために人間性を抑え、間違っていることを承知の上でやらなければなりません。ルールに隠れて縮こまっている怠惰な臆病者たちによって、毎日どれだけの痛みと破壊がもたらされているのでしょうか。被害を防ぐことができる正しい行いをしていて罰せられている善良な人がどれほどいるのでしょうか。

「信念を持たない人は、あらゆることに流される」という格言があります。最初に失われるのは主権であり、次に人間性です。自分の決断に責任を持ち、その結果を完全に受け入れなければ、人間以下の穴の中でもがくこととなります。あなたが求めるすべてのもの、とりわけ幸福は、ルールや結果にかかわらず、自分の決断に個人で完全な責任を負うときに手に入れられます。

満足感 = 現実 - 期待

バーにいる美しい女性が、ある男性に魅力的な笑顔を向けているとします。男性は空想に浸り我を忘れていきます。すると彼はその女性のところへふらっと歩いて行き、飲み物をおごると申し出ます。彼女は「結構！」と素っ気なく断り、後ろを向いてしまいます。

男の期待は大きかったのですが、現実ではその女性は自分に興味を持っていませんでした。この状況の真実または事実は、彼の期待よりも悪かったので、彼は不満を感じました。

数日後、彼がバーに戻ると、そこには別の女性がいきました。彼女は無表情で彼を見て、それからぼんやりと酒をのぞき込みます。最初の女性に振られたショックがまだ残っていますが、彼は自分が立ち直らなければならないことをわかっています。期待はできませんが、彼女に「お代わりはいかが」と無理をして申し出を試みます。彼女は、満面の笑みで彼の申し出を受け入れます。

2回目に出会った女性は、その態度とは裏腹に、純粋に男性に興味を持っていました。彼は、期待よりも現実の方がはるかに良かったので、非常に満足して帰ってきたのです。

期待よりも現実の方が良い場合、人は得をしたと感じます。逆に期待よりも現実が悪かった場合には、損をした気分になります。驚きの大きさとそれに伴う感情は、期待値と現実との差に比例します。

本当の意味で現実を知ることはできるのでしょうか？

現実とは、あるがままの世界や状態のことです。現実を確実に知ることは難しく、現実を観察するという行為でさえ現実を変えてしまいます。人は、「何かが真実である可能性が高い」、あるいは「真実である可能性が低い」と言うことができるだけで、何が真実であるか、あるいは真実になるかはわかりません。

私たちの意志は、現実に対する私たちの期待をコントロールします。期待とは決定であり、現実についての一種の推測です。私たちは、現実がどうなりそうか、それが自分にとってどういう意味を持つかを決めます。決定には2つの部分があります。それは、何かが真実であるか（あるいは起こりそうか）を考える可能性と、私たちにとってのその価値です。

現実的な期待をするのは難しく、人の行動に関しては特にそうです。社会的な生物である人間は、非合理性、論理性、誠実さ、二枚舌など、良い意味でも悪い意味でも、お互いの感情や企みの中で過ごしています。意

図的であろうとなかろうと、私たちは仲間の期待に影響を与え続け、現実から外れた方向へと導いてしまうのです。

この問題を回避するには、期待値をゼロにすればよいのではないのでしょうか？しかし、試してみてください。それは現実的ではないときっとわかります。それよりも、「真実であってほしいと望むことは、真実と同じかもしれない」という教えに従って、期待をコントロールしましょう。現実が自分の期待よりも良かったり悪かったりしたときには、その理由を探るようにしましょう。そうすれば、次はもっと現実的な期待をすることができます。もしあなたがいつまでも満足できないとしたら、あなた自身に人間性の理解が欠けているということです。

君主制の詐欺

王の神権は、44の国、州、地域に君主制が存在するほど十分な数の人々の心の中に公理として残っています。アジア（13）、ヨーロッパ（12）、北米（10）、オセアニア（6）、アフリカ（3）です。これらの国には、絶対君主制、二元制君主立憲制、立憲君主制、準国家君主制、英連邦王国が存在しています。

例えばイギリスでは、90%の人がエリザベス2世を認めています。40%の人は不可知論者や無神論者だそうです。エリザベス自身は、イギリス君主のモットーである*Dieu et mon droit*（「神と我が権利」）を信じています。女王や多くの臣民にとって、戴冠式は、女王が首長を務めるイングランド国教会の聖餐式のようなものです。女王の王冠、王笏、宝珠は、詐欺のための道具です。この他にも、何世紀にもわたって誕生し、英国の文化や社会の隅々にまで浸透していった道具が無数にあります。すべての君主のシンボルやレガリアと同様に、サン・ピエトロ大聖堂、日本の古墳、ピラミッドなど、数え切れないほどの壮大な建物やモニュメントもあります。これらの大建造物は、威圧的であると同時に刺激的であり、王権神授説について人々を騙すために不可欠な心理的トリックです。

エリザベス2世も、今上天皇徳仁も、教皇フランシスコも、自分は臣民のために尽くしていると固く信じ、生涯そうすることを誓っています。彼らもまた、どうやら詐欺に騙されているようなのです。彼らや同じような君主たちは批判されるべきでしょうか？

その問いに答えるためには、何十億もの人々が、君主は善良な人間であり、「自分の」臣民に献身的であり、本質的にどの政治家よりも優れていると考え、君主に愛情を抱いていることを考えることから始めましょ

う。また、君主は文化の砦でもあります。26 例えば、英国王室は「英国」のものを象徴する世界的なブランドであり、その多くは英国製で、英国経済にとって重要な製品です。さらに、立憲君主制の支持者は、国民は個人の主権を支配しており、君主は無力であり、「国民の象徴に過ぎず」、国家にとっては祖母や祖父のような存在であると主張します。

しかしこれらはすべて、王の神権と個人の主権という両立できないものを両立させようとする不器用な試みです。例えば、大日本帝国憲法（1889）と日本国憲法（1947）を比較してみましょう。

大日本帝国憲法の前文には、王の神権の詐欺が明記されています。

The right of sovereignty of the State, We have inherited from Our Ancestors, and We shall bequeath them to Our descendants. Neither We nor they shall in future fail to wield them, in accordance with the provisions of the Constitution hereby granted.

第1章の17条すべてに同様の記載があります。

第1条 大日本帝国は、永遠に一つの系統を継承していく万世一系の天皇が統治する。

第2条 天皇の御位は皇室典範の決まりに従って、皇室の血を受け継げる男子が継いで行く。

第3条 天皇は神聖だから非難したりしてはならない。天皇は政治をはじめ一切の事の責任を負わないし天皇をやめさせることもできない。

第4条 天皇は日本の元首で日本を治める権利を持ち、憲法の決まりに従って日本を治める。

第二次世界大戦後、日本の王権はアメリカから銃を突きつけられ、アメリカ式の社会契約のかたちに変えら

²⁶ 側近は、普通の人を実際よりも偉大に見せることに長けています。結局のところ、それが詐欺における彼らの仕事です。

れました。その結果が「日本国憲法」です。その前文は、当事者、つまり日本の主権者である個人の社会契約の公理を示しています。

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し（中略）ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。

しかし日本国憲法の第1条には2つの矛盾があります。

第1条 天皇は、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴であつて、この地位は、主権の存する日本国民の総意に基く。

「天皇は、日本国の象徴であり」とは、抽象的なデバイスである「国家」の公理に反するものです。国家は意志を持ちません。したがって意志を持たないもの（例えば、国旗や国歌、死んだ歴史上の人物が表現されたものなどの無生物）や、社会契約の当事者ではない人々だけが、その象徴として用いることができます。「天皇は日本国の象徴である」が社会契約の公理と論理的に矛盾しないためには、天皇が意思を持つことができない（つまり死んでいる）か、社会契約の当事者であることができない（つまり外国人や奴隷である）こととなります。

天皇は生きており、外国人でもありません。では、天皇は奴隷なののでしょうか？天皇が選挙権を持っていなくても、憲法上、天皇の参政権を禁止しているわけではありません。第二に、天皇はその地位を拒絶したり、退

位したりすることができます。このように、天皇は個人の主権を持ち、社会契約の当事者なのです。天皇は奴隷でもありません。したがって、「天皇は日本国の象徴である」というのは、「国家」の公理的な定義とは論理的に矛盾しています。

2つ目の矛盾は、「日本国民統合」に関係するものです。言語や宗教、さらには社会契約の概念など、多くのものが、ある事柄、あるいは複数の事柄について人々が同じ意見を持つ要因となります。しかし「日本国民統合」は、先に述べた「社会の価値」と同じ種類の論理的誤謬です。²⁷「人々」や「社会」は、「価値観」や「統一性」を持たず、持つこともできません。「国民統合」は、社会契約の当事者である主権者である各個人が、ある事柄、あるいは複数の事柄について先験的に同じ感情を持たなければならないという虚偽を公理として定め、さらにその架空の状況に天皇という象徴を押し付けています。「国民統合」は、個人の感情の選択に対する個人の支配権を奪うことによって、社会契約の前提と個人の主権の定義に真っ向から反するものです。

この2つの矛盾を解決する唯一の方法は、「国家」の公理的な定義を、抽象的なデバイスであることから、大日本帝国憲法第4条のように、個人の生きた主権者であることに再定義することです。つまり、王の神権を行使するのです。

今日の天皇は、日本国憲法の1行目によって、何の形もない省庁（すなわち、国家という抽象的なデバイスと「国民統合」という論理的誤謬）とされる、優しい心の持ち主です。実質的には、これらの法的なねじれや精神鍛錬はすべて、「大日本帝国憲法」から「日本国憲法」への移行において、1つのことを保持するためのものです。天皇は神道の最高シャーマン・神官であり、国の最高宗教的指導者ですが、それは死の最終的な脅威に対する偽りの解決策です。言い換えれば、天皇は人間が最も

²⁷ 「主権」の章を参照してください。

恐れるものから注意を引く、完璧な気を散らすものなのです。

しかし、何から注意をそらすために使われているのでしょうか？

今生天皇の祖先である明治天皇は、何千年にもわたって前任者の世代に行われてきたように、当時の全体主義的な詐欺師たちに利用されました。28天皇は王の神権を利用していません。むしろ、天皇がその道具なのです。全体主義の詐欺師たちは、主権を持つ個人を服従させるための道具として、王の神権を利用しているのです。

大日本帝国憲法を制定したとき、全体主義の詐欺師たちは自分たちの権力を密かに制度化しました。

第17条 天皇の代理人の摂政を置くときは皇室典範の決まりにしたがう。摂政は天皇の代理として権限を行使する。

これは、日本国憲法にほぼそのまま反映されています。

第5条 皇室典範の定めるところにより摂政を置くときは、摂政は、天皇の名でその国事に関する行為を行う。この場合には、前条第一項の規定を準用する。

摂政と、その側近である貴族、僧侶、実業家、軍人、政治家などが常に裏で糸を引いてきたのです。王の神権という詐欺は、彼らの陰の実権を支える要です。イデオロギーの象徴である天皇を排除すれば、イデオロギーそのものが崩壊し、全体主義の詐欺師たちはコントロールを失います。

²⁸ 例えば、薩摩藩や長州藩の藩閥は、枢密院のメンバーとして陰で実力を握っていました。

昭和天皇が個人的な神性を放棄し、すべての憲法上の表現は国民の意思と主権に関わっているにもかかわらず、王権神授説は存続しています。このような状況は驚くべきことではありません。通常戦争と核戦争によって日本がほぼ完全に消滅した後、日本の全体主義者たち（詐欺師やイデオログも同様）は、日本国憲法から王権神授のあらゆる要素を取り除かないことに固執しました。何千年にもわたって人々を騙し続けてきた全体主義の詐欺師たちは、失うものばかりだったからです。今と同様に当時から、全体主義の詐欺師は、王権神授説という詐欺を使って支配権を獲得し維持するために、罪のない人や全体主義のイデオログを犠牲にすることに何の抵抗もありませんでした。

人々は何世紀にもわたって、王権神授説によって行動する人々に騙されてきたため、自分たちの自然な存在状態や主権の概念を理解することができていません。イデオロギーがこれを助長しているのです。主権の概念は、何世紀にもわたって国民から叩き出されてきたため、主権とは何か、どうやってそれを守り、どうやって行使するのかを、人々が理解している様子はまだ見受けられません。

繰り返しになりますが、これらのことは日本に限ったことではありません。これは、あらゆる文化、あらゆる時代のあらゆる君主制の基本です。

すべての君主制の大前提には、議論の余地がありません。君主という一人の人間が国家の政治的権限を持ち、神がそれを授けたというひどく詐欺的な主張に基づいてそれを行っているのです。君主がその主張をしたかどうかは、詐欺を否定するものではありません。自分の主権と自分の存在が同じであることを理解している人間は、たとえその奪取が象徴的であったり善意であったりすると言われても、それを奪取されることを断じて許しません。自分の存在を奪取する特権を持つ人を愛することはできません。定義上、君主は、その特権を直接行使

しようが、裏で誰かに糸を引かれていようが、全体主義者であることに変わりはありません。

全体主義的なイデオログも詐欺師も同様に、君主のいわゆる善行に利益を与えて、王権神授説を正当化しようとしています。例えば、高齢の君主が被災地を訪れ、災難に直面したときの威厳と回復力を示すことで、被災者、ひいては国家を鼓舞することの何が批判されるべきなのでしょう。

全体主義者の主張を、少なくとも自分自身に静かに、3つの質問でテストしてみてください。29

1. 彼らの主張の根拠は何か？
2. “利益”の本当のコストは何なのか？
3. 代替案は何か？

君主論者の主張は、この3つのテストすべてにおいて断固として落第します。特に2番目のテストは、どのように失敗するのかに注意する必要があります。本当のコストは、王室とそれに付随する官僚機構を支えるためのコストではなく、むしろあなたの人生です。

君主制が存在するところでは、詐欺そのものを排除しつつ、詐欺のために文化に不可欠となった多くの実用的・感傷的価値のあるものを保存する方法があります。それらの価値あるものは、個人の主権を促進するために犠牲になる必要はありません。しかし、それらは年齢や出身文化に関係なく、すべての文化的構成要素よりも優先される個人の主権に、異論の余地なく従属するものです。どんな人間も、自分の主権、つまり自分の存在を正当化することを求められるようなことがあってはなりません。

²⁹ 公共の利益のためと主張する政策は、君主制と無関係な政策も含めて、3つのテストに合格するものはほとんどありません。

君主主義の解毒剤としてのアメリカの社会契約

米国の建国者たちは、すべての市民、つまりコミュニティのメンバーの間で、合意または「社会契約」を作りました。この合意は、人間の行動に現れる物理法則に合致した一連の公理に基づいています。³⁰ 独立宣言と憲法（オリジナルの形のものは、社会契約、すなわち人々がコミュニティを形成して取引を実行するために必要かつ十分なすべての条件で構成されています。「誰が何をいくらで手に入れるかを誰が決めるのか？」法の支配、三権分立、個人の権利の承認、政教分離などがルールの例です。

この取引自体については、憲法の起草者（作者）が憲法草案に添えたカバーレター³¹の中で述べています。

これらの州の連邦政府において、それぞれの州に独立した主権の全権を確保し、なおかつ全州の利益と安全を確保することは、明らかに不可能です。社会に参加する個人は、自由の一部を放棄して、残りの自由を守らなければなりません。その犠牲の大きさは、達成したい目的に加え、状況や事情にも左右されるはずで
す。

³⁰ 憲法は、社会の必要性に応じて意味を変える「生きた文書」であると主張する人がいます。この議論には欠陥があります。憲法は実際には、人間の本质に現れた物理法則の公理に基づく一連の契約条項であり、アメリカ合衆国憲法の起草者は条項を変更するプロセスを含めていました。公理と契約条項は、取引を支配する法制度の基礎となる、完全で内部的に一貫した公理系で構成されています。したがって、オリジナルの文言は、意味を変えることはできません。ただそれは、結果として得られる法制度が内部的に一貫したものになることや、契約と一致することを意味するものではありません。一貫性は、公理を遵守するための当事者の自己規律と、契約を変更するためのメカニズムに依存しています。

³¹ 米国議会議長への送付状

主権を持つ人は、自分の主権の一部を通貨として、国家から（すなわち、コミュニティの他のすべてのメンバーから）サービスを購入します。憲法は、人間における物理法則の発現とも完全に一致しているので、各メンバーがコミュニティの他の全メンバーから最大の利益を購入することは、各メンバーの個人の主権にとって最も低いコストで達成することができます。

メンバーでない人も社会契約の当事者になることを申請できます。社会契約に記載されている基準に従って資格を得られれば、社会契約の当事者（すなわちコミュニティのメンバー）はその人を認めることができます。つまり、彼は国家というコミュニティの一員となり、「アメリカ合衆国国民」と呼ばれるのです。人がコミュニティに参加する唯一の理由は、取引に参加することを許されるためです。移民の数だけ理由はありますが、すべての理由はこの1つの理由の化身なのです。

人は、ある国家のメンバーシップ（市民権など）を放棄することができます。地球上にはたくさんの国があるので、実際には国を入れ替えることになるだけです。それにもかかわらず、移民や移住が毎日のように発生するのは、人々が自国よりも他国の方が良いと考えるからです。毎年、約100万人が移住してきて、5,000人弱が他国へ移住していく米国は、人々が好んで参加する国の代表例です。もしあなたの国が出国を認めていなければ、運が悪かったとしか言いようがありません。政治的手段や力づくで改革を試みるしかありません。

現代では、移住でもしない限り、私たちは誰も国家に従うことや、憲法などの合意の当事者になることを選択することはなく、生まれながらにしてそれらの合意を結んでいます。選択の余地がないということは、そのような契約は無効であると言う人もいます。一方、子供は受胎したときから両親との間で子としての契約を結んでいるという反論もあります。親は子供を育てて保護し、その代わりに親としての満足感を得て、自分たちが年を取ったときには支援と保護を受けるといえるものです。子

供は成熟する過程で、コミュニティの他のメンバーとの関係を築き、契約の推移的性質により、コミュニティの他のメンバー全員と社会契約を結ぶこととなります

社会契約としての憲法には、コミュニティを形成し、取引を実行するために必要かつ十分なすべてのものが含まれているため、すべての条項が同等の重要性を持っています。全体主義者は、政治的便宜のために妥協すれば権力への道となる3つの条項に惹かれます。(i)すべての主権は、個人が国家に明示的に委ねた部分を除いて、個人に帰属する、(ii)国家のサービスは安全に限定される(すなわち起草者は意図的に博愛と慈善のサービスを除外した)、(iii)起草者は限定的な民主主義を確立し、多数派の専制を防ぐための規定を盛り込んだ。

解毒剤には脆弱性があります。全体主義の詐欺師は、詭弁と曖昧さを用いて無知な人々を騙し、その騙された人々は全体主義のイデオログとなります。詐欺師とイデオログは、アメリカの人口の半分を操り、残りの半方を軽蔑するように仕向けているのです。半分は憲法を破棄しなければならないと考え、残りの半分は憲法にしがみついています。意見の確かさは、知識の確かさに反比例し、無知の尺度となります。かつては共通点の少ない多様な民族にとって共通の価値観であった憲法が、今では共通の無知を露呈しています。

アメリカ人が時計をリセットするには、もう遅すぎるかもしれません。すべての独立運動がそうであるように、聞いてもらえない不満は分離、さらには暴力へとエスカレートしていくでしょう。

現代アメリカにおけるイデオロギー

イデオロギー

現在の米国で普及しているイデオロギーの一例として、建国者は人種差別主義者であり、事実上、独立宣言や憲法は「人種差別的」であるという主張があります。

この視点の提唱者は、全アメリカ人の半数にもものぼると思われませんが、西ヨーロッパ系の白人異性愛者が強迫的な人種憎悪の気持ちを満たし、犠牲者から経済的価値を引き出すために、アフリカ系の人々の奴隷化を永続的に拡大する目的でアメリカを建国したと主張しています。提唱者はさらに、奴隷制はアメリカ特有のものであり、アフリカ系の人々は奴隷制の犠牲者としては特異な存在であると主張しています。現在の米国で白い肌³²を持つ人は、成功と幸福に不可欠な特権を受け継いでいます。人種差別のせいで、他の肌色の人々はその特権を利用できません。被害者への損害賠償としての和解要求には、補償、憲法の抹消、国民間の不平等をなくすための米国の完全な改革が含まれます。

イデオロギーの否定

このイデオロギーは2つの部分に分けて誤りを証明することができます。まず、アフリカ系の人々が奴隷制の犠牲者として特異であり、奴隷制は米国に特有のものである

³² 提唱者は、白人とその他の肌色をどのように区別しているのか説明していません。彼らが言う白人とは、フィッツパトリック・スケールのタイプ1と2、その他の肌色はタイプ3から6の人を指しているようです。例えば、タイプ1のユダヤ人男性でホロコーストの生存者が白人グループに入るのかどうかは不明です。

り、アフリカ系の人々の奴隷化を永続的に拡大するために米国が形成された、という主張についてです。

ヒト属の登場は約200万年前。ホモ・サピエンスは20万年前。最初の原始都市は1万年前。最初の文明は3,000年前です。

ヒト属の出現以来、ヒト科動物は生存と繁殖のための闘いの中で苦しんできました。これまでに存在したほとんどすべてのホモ・サピエンスの人生は、ときどき幸せ、平和、幸福の瞬間の混じった苦難の連続でした。新石器革命や最初の原始都市のような古い時代からの証拠が示すように、私たちの種が通常の慣行として行ってきたのは、奴隷制、イデオロギー（宗教的、政治的、経済的）、王の神権、カースト、暴力、そしてあらゆる種類の外国人嫌悪、偏狭、人種差別、偏見であり、つまりは個人の主権を奪うことでした。このような行動は、最小のエネルギー消費で生存・繁殖するように進化的にプログラムされた行動と一致しています。

人間の進化における2つの発展は、この長年にわたる普遍的な悪行とは正反対です。

1. ヒト属は約200万年前にコミュニティを形成していた。
2. 244年前、人間はコミュニティのメンバー間で社会契約を結び、個人に主権の一部を安全サービスの対価として使用することを求めることで、互いの主権を侵害しないようにした。

2020年までに、第2の発展によって人類の91%は、極貧と奴隷の歴史的標準環境から直接的または間接的に解放されました。

2つ目の偉業の大きさを理解するために、現代人の20万年の歴史を1年に圧縮して想像してみてください。ホモ・サピエンスは、1月1日の午前0時に登場します。合衆国憲法が登場する12月31日午後3時までは、私たちの種

族のほぼ全員が困窮した生活を送ることになります。33それからわずか9時間後の午前0時には、ほぼすべての人類が極貧から脱し、私たちが知る現在の世界が実現します。

独立宣言と憲法の物語は、人類の種の行動の全歴史とは一致しない、このような記念碑的な偉業がどのようにして生まれたのか、そして、権利を奪われた人々がどのようにして社会契約に参加することができるようになっていったのかを描いています。

独立宣言や憲法の起草者たちは、奴隷制を維持・促進するために書いたものではありません。奴隷制の繁栄は十分に確保されており、その継続と拡大を助けるためにこのような特別な措置を講じる必要はありませんでした。今日でも世界の一部で行われているように、何千年にもわたって私たちの種族は奴隷制を実践し、すでにマスターしていたのです。

そうではなく、起草者たちは憲法において人間の悪行を逆に利用しようとしたのです。一部の人々、主に米国のヨーロッパ系子孫の集団は、憲法の世界契約に基づくコミュニティに自分たちの聖域を見出しました。しかし悪行の大半は、新たに誕生した米国を含め、世界中で続きました。

しかし社会契約の当事者は、何世代にもわたって努力を重ねることで、より多くの人々を社会契約に参加させることができました。この契約のバリエーションは、ゆっくりと世界中に広まり、模倣されました。一部のコミュニティでは市民の多くを向上させましたが、ほとんどのコミュニティでは失敗に終わりました。古くて悪い習慣はなかなか抜けないものなのです。すべてのアメリカ人が社会契約の完全な当事者になるまでに189年かかったということは、現代人の20万年の歴史の一部とし

33 この圧縮された時間軸で考えると、奴隷たちがギザの大ピラミッドを約45分間で建設するのは、アメリカ合衆国憲法が登場する1週間前のクリスマスの日です。

て見るができなければ、長い時間のように見えるでしょう。

このイデオロギーの残りの部分を否定するために、私は6つの事実を使って、独立宣言と憲法が「人種差別的」であるという主張に完全に反論します。34イデオログは、自分の主張に焦点を当てるのに必要な正確さで言葉を使うことはほとんどありません。「人種差別主義」とはそのような言葉です。全体主義的な詐欺師は、意図的に「人種差別的」と「外国人嫌悪」を混同しますが、全体主義的なイデオログは知的怠慢からそうします。不正確な言葉を使って無差別に人を非難することで、人の主権を奪うことが容易になります。誤解を避けるために、私は人種差別主義者の辞書の定義を使用します。「人種や民族を理由に人々に偏見を持ったり、敵対したりする人。」

1. 人格は奴隷に付与されていた。憲法で「人」が使われている、つまり性別や人種に関する修飾語がないことから、起草者たちは、奴隷を含むすべての人に等しく人格を付与したのです。つまり「その他の人々」³⁵、「現存する州のいずれかが認めることを適切と考える人々」³⁶、そして「ある州において、その州の法律に基づいて奉仕または労働に従事する人」です。³⁷ この「人」の使用は、憲法上の他のすべての例と同等であり、個人の主権とすべての人間への平等な法の適用という公理を確立しています。

³⁴ 全体主義的なイデオログは、問題定義する中で、独立宣言や憲法、国を擬人化することで、最初の段階で前提において論理的誤りを犯します。契約が人種差別であるはずがない、社会が価値観を持つはずがない、というようにです。全体主義的な詐欺師は、この論理的誤謬を使って人々を騙し、主権を放棄させるのです。

³⁵ 第1条、第2節、第3項

³⁶ 第1条、第9節、第1項

³⁷ 第4条、第2節、第3節

2. 人種の排除。独立宣言（1776）とオリジナルの憲法（1789）には、肌の色や人種、奴隷や奴隷制などに関係する言葉は一切含まれていません。国籍に関する記述は「インディアンは課税されない」と「インディアン部族」という2か所だけで、これらは人種ではなく、課税免除と現存する主権コミュニティのメンバーとの商取引に関するものです。これを1861年の南部連合憲法と比較してみてください。「**アフリカ人**」という表現が1か所、「**黒人**」という表現が3か所、「**奴隷**」または「**奴隷制**」という表現が10か所あります。
3. 人間の財産価値の排除。独立宣言や憲法には、人の財産価値に関する規定、言及、暗示はありません。³⁸
4. 奴隷制に反する措置。13の植民地の奴隷制に反する3つの措置³⁹は、憲法で禁止されていませんでした。3つの措置とは、奴隷の解放、市民による自分の奴隷のいかなる州への移送禁止、議会による大西洋奴隷貿易への干渉禁止です。

³⁸ 批評家たちは、起草者たちが「黒人は白人の5分の3」と考えていたと主張し、それが憲法が「人種差別的」であることの紛れもない証拠だとしています。私は、5分の3の妥協案は、奴隷を保有する州に対する見事な仕組みであったと主張します。奴隷所有者は、自分たちの奴隷を議会での人口による代表権にカウントしたいと考えていましたが、一方で彼らの主権を奪い続けようとしてきました。この仕組みは、私有財産権に基づく奴隷所有者の主張を逆手に取り、議会での代表権を減らす一方で、社会契約に従うことを義務づけたのです。評論家の主張は次のように反証されます。(i) 憲法には「人」の定義が1つしかなく（つまり、奴隷用と自由人用があるわけではない）、人は不可分である。(ii) 条項は、奴隷（財産）に適用され、黒人を含む自由人（つまり、「フリー・ニグロ」、「フリー・ブラック」（自由人）、生まれながらにして自由である非白人）には適用されない。ザ・フェデラリストNo.54には、「彼らを住民と見なしているが、隷属によって自由な住民と同等以下のレベルに貶められており、奴隷は人間の5分の2を奪われたものと見なしている」と記載があります。私たちはこれまで、代表権は人にもみ関係し、財産には全く関係しないという考えに基づいて進んできました。しかし、それは正しい考えなのでしょうか？政府は、個人と同じ程度に財産を保護するため設立されています。

³⁹ 内戦は除きます。

5. 奴隷制とは無縁。アメリカ独立戦争の後、王の神権に代わるものとして連合規約が制定されました。憲法は、連合規約を改良して社会契約を確立するために書かれたもので、奴隷制を廃止・拡大するためのものではありません。⁴⁰
6. 主権の遵守。連邦政府には、主権を有する州（基本的には独自の憲法を持つ小国）に対して、「その他の者」（すなわち奴隷）または他の誰かを社会契約に参加させることを強制する法的権限はありませんでした。各州は社会契約に署名していたため、連邦レベルで社会契約に参加する個人の権利を与えたり剥奪したりするには、その州を経由して、その州との関係に応じて行うしかありませんでした。

イデオロギーの意味するところ

公理的根拠、自己一貫性、および社会契約としての独立宣言と憲法の完成度は申し分ありません。

残念なことに、アメリカ人は憲法制定を取り巻く人々や状況を理解するために一致協力していません。建国者たちは、複雑な問題を扱う複雑な人たちでした。なんでも人種差別主義者呼ばわりすることは、真実で完全な探求から人を遠ざけ、米国における奴隷制度の忌まわしさが比べると小さく見えるほどの、より深い問題を覆い隠してしまいます。アメリカ人が自ら作り出したイデオロギー的なヒステリーの中で、半分は実行可能なシステムを破壊し、半分はそれにしがみついています。どちら側の人も、自分が消そうとしているもの、守ろうとしているものを理解しているようには見えません。

⁴⁰ 独立宣言や憲法の後に制定された法律では、奴隷制は劇的に拡大し、その1世紀後に最終的に廃止されます。

トーマス・ジェファーソン⁴¹は、生涯を通じて600人以上の奴隷を所有していましたが、独立宣言の草稿では奴隷制を厳しく非難しています。

彼（ジョージ3世）は、人間性そのものに対する残忍な戦争行為を仕掛け、彼に何ら危害を加えたことのない遠く離れた人々の最も神聖な生命と自由の権利を侵害し、彼らを捕らえて西半球で奴隷にしたり、当地へ移送する際に悲惨な死に至らしめたりした。この海賊的な戦いは、信仰に背く権力による恥ずべき行為であるが、キリスト教徒たる英国王の戦いである。人間が売買されるべき市場を開放しておくことを決意した彼は、この忌まわしい商取引を禁止または制限しようとするあらゆる立法の試みを抑制するために、国王の拒否権を悪用した。そして、**このような恐ろしい事態が際立った死という事実を必要としないように**、彼は今、まさにこれらの人々（奴隷？）が我々の間で武装して立ち上がり、彼が彼らから奪った自由を、彼が彼らを押し付けた人々を殺害することで買い取るように仕向けている。こうして、ある人々の自由に対して犯した過去の罪を、他の人々の命に対して犯すように促した罪で償おうとしているのである。

サウスカロライナ州とジョージア州の代表団や、大西洋奴隷貿易に関わっていた商人を代表する北部の代表団は、全代表団の間で激しい議論が行われる中、ジェファーソンの一節に反対しました。ジェファーソンの一節は削除され、国王ジョージ3世が「われわれの間に内

⁴¹ モンティチェロによると、「ジェファーソンは、奴隷制を維持することは、"狼の耳を掴むようなもので、掴むことも、安全に逃がすこともできない"と書いている。ジェファーソンは、世界初の民主主義の実験である彼の大切な連邦制が、奴隷制によって破壊されてしまうと考えていたのである。アメリカ国内で奴隷を解放することは、1791年にハイチで起きた奴隷の反乱のように残忍で致命的な大規模な人種戦争を引き起こすだろうとジェファーソンは考えていた。しかし彼は、アメリカの一部が奴隷廃止に賛成し、一部が奴隷制の存続に賛成している状態で、奴隷を拘束し続けることは連邦を破壊する内戦にしかならないとも考えていた。ジェファーソンの後者の予言は正しかった。」

乱を引き起こそうと」扇動しているというおなじみの条項が採用されました。

ベッドの下をのぞき込んで人種差別主義者を探すよりも、ジェファーソンや彼の仲間たちがやろうとしたように、アメリカ人は「個人の主権のどのくらいを、どのようなサービスの見返りとして国家に譲るべきか」という自分たちの時代の中心的な問題に集中することができるはずで、アメリカ人は、「なぜ憲法で奴隷制を廃止しなかったのか」というような検証されていない仮定を含んだ質問をするよりも、「奴隷制を廃止するための必要十分条件は何か」という実践的な質問ができるはずで

例えば、大規模な奴隷解放のためには、奴隷を所有する主権者個人の気まぐれに依存する解放では不毛であることに気づくでしょう。より深く考えてみると、社会の中の奴隷所有者と非奴隷所有者（奴隷を除く）が個人の主権を持ち、社会契約で結ばれている場合には、奴隷制の根絶が成功する可能性が高くなるとわかります。変革は、奴隷制をはじめとするあらゆる問題についての意見の相違により、自分たちの主権が脅かされていると個人が感じたときに起こるのです。

一部の州のみが独立に同意していれば、社会契約を導入できたでしょうか？そのような独立を達成することは、軍事的な観点からは考えにくいですが、独立した州（または複数の州）は、奴隷制廃止の条項を含む憲法と社会契約を導入することができたと考えられます。しかし、それは奴隷制を根絶するための解決策にはなりません。イギリスとその忠誠的な州では、奴隷制を含むあらゆる問題が「そのまま」続いていくに過ぎなかったでしょう。しかし独立宣言への全会一致の同意⁴²がなければすべての州の独立はあり得ず、それゆえ、社会契約を利用していつか米国で奴隷制を完全に根絶する可能性もありません。

⁴² ニューヨーク代表は独立宣言への署名を棄権しました。

簡単に言えば、人間が主権者として自己の利益に従って自由に選択できる場合、少数の人間が全員のために決定する場合に比べて、コミュニティ全体がより大きな幸福と繁栄の状態を達成することができるのです。選択の自由がもたらすトレードオフは厳しいものです。何世代とまではいかなくても、何年も続く様々な苦しみを目の当たりにすることになるでしょう。この現象に対する反対直感は、思いやりのある人々を悩ませ、癒し、平等化、慰め、育成などの人道的な解決策についての争いを引き起こします。

自由に選択できることの厳しいトレードオフがあるにもかかわらず、これまでの20万年の奴隷制よりもひどいことが1つあります。それは、これから20万年続く奴隷制にあなたが最初に「入学」する可能性があるということです。

憲法から生じる本当の問題

アメリカの建国以来、今日に至るまで、連邦政府、州政府、地方政府は、社会契約の条件に著しく違反する法律を制定してきました。法制度における例は数多くあり、憲法の改正43そのものにおいても同様です。

社会契約を破った最初の法律は、おそらく連邦政府が制定した帰化に関する法律でしょう。憲法の他の条項と同様に、帰化についても、憲法44は人種について言及していなかったのです。しかし第1回議会（1790年）では、憲法とは矛盾する連邦法が制定されました。「外国人は自由な白人であれば誰でも」、一定の基準を満たしていれば、居住している州の普通裁判所に申請すること

⁴³ 違憲の憲法改正。

⁴⁴ 第1条、第8節、第4項

で、その州の市民になることを認めることができる45、
というものです。

どうしてこんなことが起こるのでしょうか？

上記のような法律の多くは、人種差別に由来するものです。しかし、ほとんどはそうではありません。イデオログたちが憲法の中の人種差別にこだわることで、社会契約の実際の脆弱性についての微妙な議論や理解が消し去られ、それによって最も危険な問題が発見されずにすり抜けてしまうのです。

独立宣言と憲法は、コミュニティを形成し、そのコミュニティのメンバー間で安全サービスの取引を実行するために必要かつ十分なすべてを含む社会契約を構成しています。メンバーは、個々の主権の一部を通貨としてこれらのサービスの対価を支払います。したがって、すべての条項は等しく重要なのです。

しかし全体主義者は、コミュニティに対する究極の力の源となる3つの条項に惹かれます。(i) すべての主権は、個人が国家に明示的に委ねた部分を除き、個人に帰属する。(ii) 国家のサービスは安全に限定されており、起草者は意図的に博愛と慈善のサービスを除外した。(iii) 起草者は、多数派の専制を防ぐために限定的な民主主義を確立し、純粋な民主主義に対する規定を盛り込んだ。

社会契約に違反する法律は、事実上すべて、これらの条項の1つ以上を誰かが妥協したことで発生していることに気づくでしょう。イデオログは、美德を振りかざし、他人を助けることで自己愛に陥り、社会契約を破ってしまいます。一方、全体主義の詐欺師は、通常人々がイデオロギーに気を取られている間に、狡猾に社会契約を破ります。いずれにしても、イデオログと詐欺師の動機は同じで、「支配」です。その結果、個人の主権を奪い、幸福を破壊することになるのです。

⁴⁵ 第1回議会、第2会期、第3章、第1節、1790年。

建国から約250年が経過した現在、アメリカ人に残されているのは、オリジナルの憲法や独立宣言の一部を否定するような憲法や判例です。始原主義者と、生ける憲法を主張する人々（つまり、ゆるやかな建設主義）との間では、戦いが繰り広げられています。前者のグループは、市民の政治的プロセスに従って、そして主権者としての市民の能力において、経済的、科学的、そして価値観を担った判断を市民に任せています。後者のグループは、司法の支配権を用いて、3億人の市民にその価値観を規定するために主権を奪取します。その代表例が最高裁です。最高裁は9人の知識人で構成されていますが、彼らはそのような問題を決定にあたり、他の国民に比べて特別な資格を持っているわけではありません。始原主義者と生ける憲法の支持者であるこの2つのグループの価値観は、根本的に異なっています。一方のグループは、社会契約の前提となる公理（米国の存在そのものの性質）を支持しており、もう一方のグループは支持していません。

政治的な利害関係は変化しますが、人間の本質は変わりません。物理法則と人間の本質に基づいて、すべての人間、すべての時代に適用される普遍的な公理がなければ、宇宙の物理的現実と私たちの存在に合致した議論をするための基準点がありません。そこには、時間を進めたり戻したりする国の連続性を保つチャンスはなく⁴⁶、したがって、個人が自分の労働の成果である自分の存在を統治するようなコミュニティを作るチャンスもありません。

もしアメリカ人がその社会契約を破壊することになれば、その墓碑銘にはきっと「地獄への道は善意で舗装されていた」と書かれるでしょう。

⁴⁶ 「お金」の章を参照してください。

主権の終焉

米国やその他の地域の奴隷制度から得られる教訓は、誰でも奴隷制度を永続させることができるということです。これはホロコーストから得られる教訓が、誰でもホロコーストを永続させることができるということであるのと同じです。そして人間の本質として、常に誰かがそうしようとしています。全体主義者になりたいという推進力は、ホモ・サピエンスという種に内在する性質であり、

全体主義の詐欺師は、詭弁と曖昧さを利用して無知な人々を騙し、そこから全体主義のイデオログがウイルスのように増殖していきます。イデオログは、すべての人の主権を危険にさらしました。その結果、アメリカの人口の半分は、残りの半분을軽蔑しています。半分は憲法を破棄しなければならないと考え、残りの半分は憲法にしがみついています。意見の確かさは知識の確かさに反比例していて、それが無知の尺度です。双方ともに自分の意見の正しさを確信しています。これまでのところ、その結果は驚くべきものであり、お互いの扱いも同様です。

独立宣言やオリジナルの憲法の成功は、一部には、権利を奪われた人々がいかにして社会契約を結ぶことを許されたかという点に関係しています。その一環として、コミュニティ全体が正しく機能するためには、安定したヒエラルキーが必要です。しかし安定したヒエラルキーは恣意的なものではありません。それは人種差別や性差別やその他の権力欲⁴⁷ではなく、個人の能力から自然に生まれるものであり、社会契約の枠組みの中で個人の主権が行使された結果なのです。

⁴⁷ 能力に基づかないヒエラルキーは、その本質的な不安定さから崩壊します。

このことは、社会契約の拡張性に限界があることも意味しています。つまり、ヒエラルキーは人口の最小公倍数の（無）能力に平坦化されるため、社会契約のメンバーを無限に増やすことはできないのです。平坦化を相殺するには、私有財産の非自主的な再分配が必要であり、これは個人の主権を侵害します。そして社会契約は崩壊します。

社会契約のもう1つの限界は、市民が確立する民主主義の程度に関係しています。今日、アメリカ人は、古代から現在に至るまでの失敗した民主主義国家のオーナーマニュアルはもちろんのこと、自国の建国文書も最初に読まずに、過激で純粋な民主主義を狂信的に追求しています。内省する能力に乏しいため、自分たちが築こうとしているものにおいて、自らが仕掛け爆弾になっていることに気づくことができません。多くの人が目指しているのは憲法を消滅させることですが、憲法は、主権を奪取する人間の本質を緩和することで、コミュニティの各メンバーが仲間のため、ひいては自分自身のために最大の価値を生み出すことを可能にする道具です。アメリカ人にとって、社会契約は国の存在と一貫性に不可欠なものです。なぜなら、アメリカはさまざまな文化的背景を持つ人々で構成されていて、彼らにはコミュニティの基盤となるような共通点がほとんどないからです。

民主主義を最初に実験した人々による古典的な批判は、明確かつ正確です。民主主義は暴徒の支配に退化し、その後、崩壊します。個人の主権は失われ、全体主義者が勝ちます。奴隷制は続きます。その時初めて、人は奴隷制よりも悪いことの1つは、それを根絶することの難しさだと気づくでしょう。